リ故ニ單ニ支援隊タルニ過キス

第二百 前哨騎兵中隊ハ通常直ニ下士哨又ハ騎哨ヲ配置シ特ニ緊要ナルトキハ小哨ヲ分遣ス而シテ此等ノ各哨ハ馬匹ヲ後方部隊ノ位置ニ殘置シ徒歩ニテ服務セシムルヲ可トスルコトアリ

前哨騎兵中隊ハ通常鞍ヲ卸スヲ許サス又直接警戒ノ爲メ所要ノ銃前哨ヲ備フ

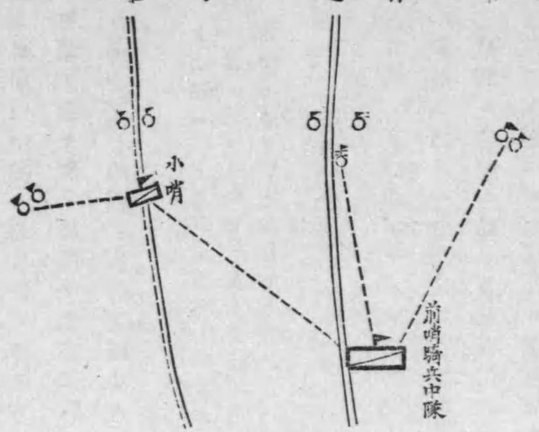
前哨騎兵中隊ノ警戒法

騎兵中隊ノ如キ小數ノ兵力ニシテ前哨ヲ配布スルニ方リ數箇ノ梯隊ニ區分スルハ却テ搜索及抵抗ニ不便ナルヲ以テ此ノ如キ小部隊ニ在リテハ成ルヘク梯隊區分ヲ避ケ中隊ヨリ直ニ下士哨又ハ騎哨ヲ配置スルヲ原則トシ特ニ緊要ナル場合ニ於テノミ小哨ヲ分遣ス而シテ比較的集結セル中隊ヲ掌握スルヲ以テ銃前哨ヲ設ケ直接ノ警戒ヲ爲スモノトス

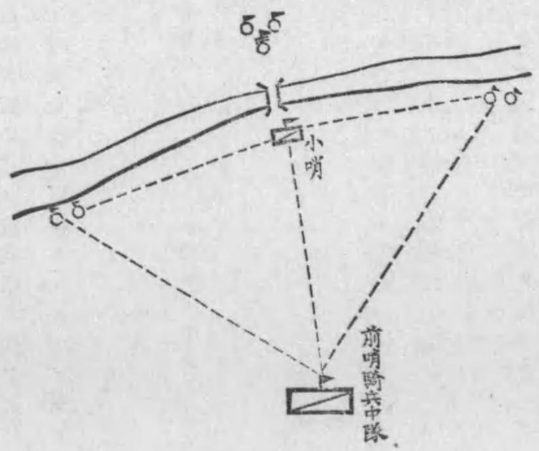
特ニ緊要ナル場合トハ概ネ左ノ如シ

一 搜索區域廣大ニシテ前哨騎兵中隊ヨリスル斥候ニテハ往復ノ爲無益ノ時間ト勞力ヲ費ストキ

普通ノ場合



特ニ緊要ナル場合



二　隘路等重要ナル地點ノ占領ヲ要スルトキ

而シテ前哨中隊ハ通常鞍ヲ卸スヲ許サス直接警戒ノ爲メ銃前哨ヲ備フ又其哨兵ハ晝間ヲ除キ概ネ馬匹ヲ後方部隊ノ位置ニ殘置シ徒歩服務セシムルヲ利トスルコト多シ是レ馬匹ノ疲勞ヲ減少センカ爲ナリ

第二百一　小哨ノ兵力ハ一小隊以下トシ其重要ノ度ニ應シ將校又ハ下士ヲ以テ長ト爲シ之ヨリ所要ニ應シ下士哨又ハ騎哨ヲ出シテ監視ニ任ス

小哨ハ要スレハ銃前哨ヲ備フ

騎兵小哨ノ位置

騎兵小哨ハ兵力稍〻大ナルヲ以テ左ノ諸項ニ適合スル位置ヲ選定スルヲ要ス

一　敵方ニ通スル道路ノ集合點附近ニシテ哨兵トノ連絡容易ナル地

二　敵眼ニ遮蔽シ而モ運動自在ナル地

三　抗戰ニ適スル地《一部ニ交通路ヲ開設シタル堅固ナル圍壁ヲ可トスルコト在リ》

騎兵小哨ノ兵力

騎兵小哨ノ兵力ハ一小隊以下トシ地點ノ重要ノ度ニ應シ將校或ハ下士ヲ以テ長トシ之ヨリ下士哨又ハ騎哨ヲ出スモノトス而シテ主要ノ斥候ヲ控除スルトキハ僅少ノ騎哨、時トシテ下士哨ヲ出スニ過キサルノ兵力ナルヲ以テ强ヒテ要スルキトノ外銃前哨ヲ置クノ必要ナシ

騎兵小哨ニ於ケル下士卒ノ心得

左ノ件ハ小哨長ノ許可アルニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

一　卸鞍脱勒及裝具ノ解脱

二　雜談、假眠

三　哨所ヲ離ルルコト

四　焚火、炊爨

五　飼付

六　點火

左ノ件ハ終始注意ヲ怠ルヘカラサルコトトス

一　連絡ノ爲前方ノ哨所、後方部隊ノ位置ヲ知ルコト

二　常ニ耳目ヲ活動シテ烽火、銃聲、喊聲、蹄音等ニ注意スルコト

三　馬匹ヲ愛護シ飼付及水飼ヲ十分ニシ四肢ノ摩擦ヲ怠ラサルコト

四　夜間ハ音聲ヲ勉メテ低クスルコトニ注意スルコト

第二百二　下士哨ハ下士若クハ上等兵一人及兵卒三人以上ヨリ成リ通常其二人ヲ以テ監視ニ任ス

騎哨ハ通常二人若クハ三人ヨリ成ルモノトス

騎兵ノ下士哨及騎哨ノ兵力

騎哨ハ最大限三人、下士哨ハ最小限其長《下士若ハ上等兵》ヲ除キ三人トス是レ歩兵ニ比シ其隊ノ兵員少ナキカ爲ナリ而シテ下士哨ハ半夜若ハ全夜ヲ通シテ服務シ騎哨ハ毎二時若ハ數時ニ小哨或ハ前哨中隊ヨリ交代スルモノトス

第二百三　下士哨及騎哨ヲ配置スル爲メ注意スヘキ要旨ハ勉メテ遠ク展望セシムルニ在リ之カ爲メ望遠鏡ヲ携帶セシムルヲ可トス若シ遮蔽物アリテ展望十分ナラサルカ若クハ夜間ニ於テハ少クモ道路ヲ監視セシムヘシ

騎哨乘馬シアルトキハ揚銃ヲ爲シ又ハ銃ヲ鞍上ニ横フルモノトス

騎兵ノ下士哨及騎哨ノ監視法

下士哨、騎哨ヲ通シ下馬若ハ乘馬《晝間》ニテ二人ノ複哨ヲ配置シ前地ノ監視ニ任シ他ハ交代兵ト爲スヲ普通トス三人ノ騎哨ニ在リテ乘馬スルトキハ一人ハ下馬休憩シ若ハ複哨ノ一人乘馬シ一人下馬スルトキ他ノ一人ハ此手馬ヲ保持スルモノトス三人ノ騎哨ニ在リテ二人下馬スルトキ亦然リ

總テ騎哨等ハ遠ク展望セシムルヲ要旨トスルヲ以テ勉メテ望遠鏡ヲ携帶セシムヘシ故ニ屋上、樹木ニ攀登シ展望ノ自在ヲ圖ルヲ要ス若展望自在ナラサルカ若ハ夜間ト雖少クモ道路ハ監視セサルヘカラス

騎哨下馬シ在ルトキ携銃法ハ歩哨ト同シク、乘馬シ在ルトキハ揚銃ヲ爲シ又ハ

銃ヲ鞍上ニ横フルモノトス

騎兵下士哨及騎哨ノ位置

騎兵ノ下士哨及騎哨ノ位置ニ具備スヘキ要件概ネ左ノ如シ

一 展望自在ニシテ遠距離ノ地ヲ通視シ得ルコト

二 蔭蔽シテ後方及側方ニ連絡シ得ルコト

三 哨兵ノ隱匿地アルコト

四 哨兵ト哨所トノ距離遠隔ニ失セサルコト

五 前方ニ河川等ノ障碍物ヲ控ユルコト

六 抗戰ヲ爲シ得ル據點ヲ有スルコト

騎哨ノ位置ハ右ニ準スルモノトス

騎兵下士哨長ノ注意

一 哨兵ヲ適當ノ位置ニ配置シ十分下士哨ノ位置ヲ遮蔽シ小哨若ハ前哨中隊トノ連絡ヲ確實ニスルコト

二 報告ノ迅速ヲ圖ル爲乘馬兵ヲ準備シ在ルコト

三 黄昏ヨリ夜ニ入ラントスル場合ニハ特ニ物體ノ狀況ヲ知悉セシメ明暗ノ度ニ依ル錯誤ヲ避ケシムルコト

四 必要ノ工事ヲ施シ道路上ノ阻絶ハ五十米内外ノ所ニ於テ行フコト

五 必中ヲ期シ得ヘキ如ク射擊設備ヲ爲スコト

成ルヘク圍墻内ニ入ルヲ避クヘシト雖村落ニテハ圍壁ヲ利用シ銃眼ヲ設ケ障蔽物ヲ設置シ通路ヲ開キ進退ノ便ヲ圖ルコト

六 卸鞍セス飼付ハ交互ニ之ヲ爲シ水嚢等ヲ離脱セシトキハ忘ルルコトナク之ヲ直ニ定位置ニ復スルコト

七 若シ炊爨スルトキハ特ニ遮蔽ニ注意スルコト

八 敵襲ノ外決シテ戰鬪セサルコト

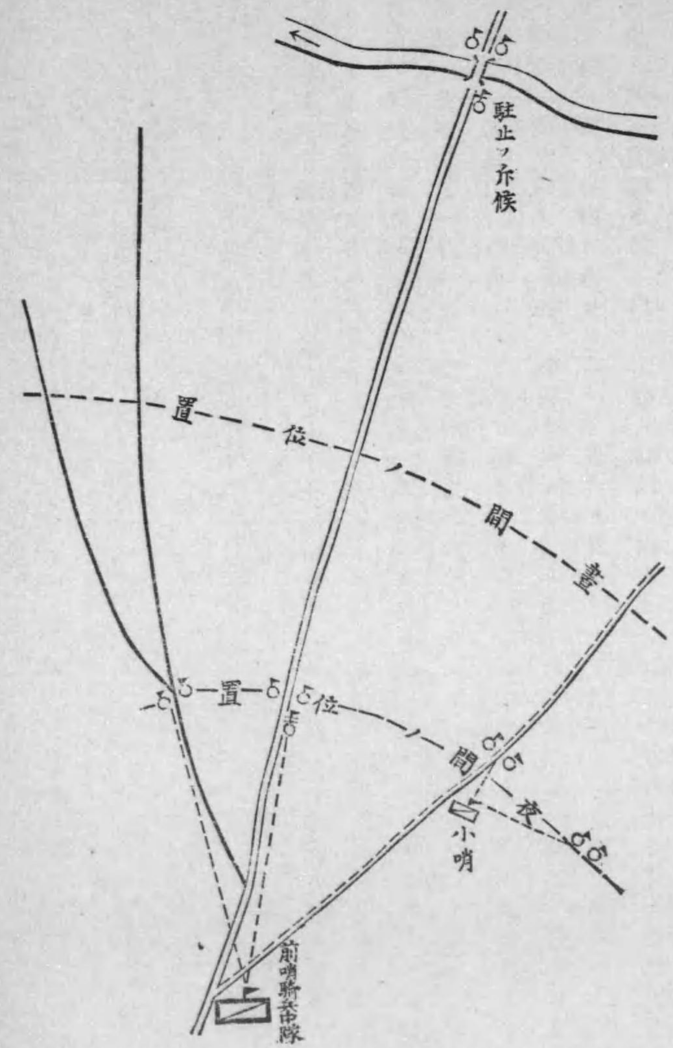
第二百四 前哨ハ晝間監視線ヲ擴張スル爲メ下士哨及騎哨ヲ夜間ノ位置ヨリモ更

ニ前方ニ派遣スルコトアリ

又夜間ト雖モ前方ノ要點ニ斥候ヲ駐止セシメ置クヲ可トスルコトアリ

騎哨晝間ト夜間トノ位置

騎兵哨所ノ間隔距離ハ歩兵ニ比シ約倍數ニシテ晝間ハ更ニ監視線ヲ擴張スル爲前哨騎兵中隊若ハ小哨ヨリ出ス下士哨、騎哨等ヲ晝間夜間ノ位置ヨリ一層前方ニ派遣スルヲ有利トスルコト在リ面シテ隘路等前方ノ要點ニ駐止ノ斥候ヲ出スハ夜間ト雖亦必要トスル場合多シ左圖ノ如シ



第二百五　前哨騎兵中隊長及小哨長ハ任務ト情況トニ從ヒ分遣セル各哨ニ特別守則ヲ與ヘ其交代法、人馬ノ休憩、鞍ノ改裝、馬匹ノ飼付、炊爨、焚火等ニ關シテ規定ス又時機ヲ失セス敵ノ行動ヲ偵知シ部下ヲシテ常ニ戰鬪準備ヲ整ヘシメ敵襲ニ方リテハ之ヲ拒止シ後方部隊ヲシテ之ニ應スル時間ノ餘裕ヲ得セシムルコトニ關シ身ヲ以テ其責ニ任セサル可カラス

前哨騎兵中隊長及小哨長ノ規定

前哨騎兵中隊ヨリ直ニ出テタル下士哨、騎哨ノ特別守則ハ中隊長、小哨ヨリ出テタル下士哨、騎哨ハ小哨長ヨリ與フルモノトス故ニ其交代法、人馬ノ休憩、鞍ノ改裝、馬匹ノ飼付、炊爨、焚火等戰備ニ關スル規定モ亦此系統ニ從フモノトス然レトモ小哨長ハ是等規定ニ關シテハ豫メ中隊長ノ指示ヲ受クルハ勿論ナリトス

騎兵ノ抵抗力ハ靭强ナラサルヲ以テ凡テ前哨騎兵中隊長、小哨長等最前線ニ在ル諸官ノ身ヲ以テ責ニ任シ戰備ヲ嚴ニシ速ニ敵ノ行動ヲ偵知シ敵襲ヲ防止シ後方部隊行動ノ自由ヲ得セシムルハ歩兵ト異ナルナシ然レトモ不意ノ敵襲ニ際シ背後ノ部隊戰鬪準備ノ爲ニ十分ノ時間ヲ得ル能ハサルトキニ方リテハ自己ノ全

滅ヲ賭シテ抗戰ニ努力セサルヘカラス之カ爲火器利用ノ設備ハ決シテ之ヲ忽セニスヘカラス

又特ニ其斥候ハ蔭蔽地ハ勿論遠ク敵方ニ挺出セシメ敵ト觸接ヲ保持シ屢〻敵ノ前哨線ニ達セシムルヲ要ス又小哨長等ノ報告ニ關スルコトハ歩兵ト同シ

第二百六　騎兵集團、騎兵旅團等敵ト遠隔セル時ニ於テハ固有ノ前哨ヲ配置スルノ外前方ニ派遣シアル捜索隊ト連絡スルヲ要ス

捜索隊遠ク前方ニ在ル主要ノ地點(隘路等)ヲ占領スルトキハ敵ヲ抗拒シ或ハ少クモ其前進ヲ遲滯セシムルヲ得ヘシ

騎兵旅團以下ノ部隊ニ在リテモ亦前項ノ目的ノ爲メ一部隊ヲ遠ク前方ニ派遣スルヲ可トスルコトアリ

第二百七　以上掲クル外獨立セル騎兵ノ前哨各部ノ勤務ハ凡テ歩兵ノ爲メニ掲ケタル規定ノ趣旨ニ從フモノトス

敵ト遠隔セルトキノ特別處置

騎兵集團、騎兵旅團等敵ト遠隔セル時ハ前衛ノ前方數里以上ノ地ニ捜索隊ヲ出

シ不羈行動セシムルモノトス即チ捜索隊ハ深ク敵地ニ入リ敵情ヲ偵知シ四圍ノ地域ヲ捜索シ敵襲ニ際シテハ巧ニ退避シ其觸接ヲ保ツモノトス故ニ捜索隊ハ必要以外ニ兵力ヲ分散スルコトナク其駐止ニ方リテハ遠ク前方ニ在ル隘路等主要ナル地點ヲ占領シ以テ敵ヲ抗拒シ或ハ其前進ヲ阻止シテ遲滯セシムルヲ得ヘシ是レ自己ノ警戒ト後方騎兵團保安ノ便ヲ得セシムルニ利アルヲ以テナリ

此ノ如ク捜索隊ハ遠ク前方敵地ニ挺進シ停止スルヲ以テ騎兵團ハ其駐止ニ際シ固有ノ警戒線タル前哨ノミニ滿足セス併セテ此捜索隊ト連絡セシメサルヘカラス其方法ハ一定ノ規定アルニアラス要ハ地形ト距離及敵情ノ如何ニ依リ其連絡兵ノ兵力ヲ決定スヘキモノトス舊令ハ騎兵旅團宿營スルトキハ遠ク一部隊ヲ出スヲ有利トスル旨ヲ規定セラレ在リタルモ今日ニ於テハ捜索隊ヲシテ其任ニ服セシメ之ニ連絡スルコトニ改メラレタリ

騎兵旅團以下ノ部隊ニ在リテモ捜索隊ヲ出シ置カサルトキハ前述ノ目的ト同一目的ノ爲メ一部隊ヲ派遣シ之ト連絡スルハ前記ノ要領ニ準スルモノトス

騎兵前哨ノ勤務

概括シテ言ヘハ歩兵前哨ハ抵抗ヲ以テ、騎兵前哨ハ捜索ヲ以テ警戒ノ目的ヲ達スルヲ主要トシ其抵抗方法ハ歩兵ト同シク火線ニ依ルモノトス而シテ巡察、斥候ノ勤務ハ寧ロ歩兵ヨリモ頻繁ニシ以テ騎兵前哨ノ缺陷トスル大ナル罅隙ノ捜索ヲ爲ササルヘカラス又其前哨各部ノ交代モ歩兵ヨリ長時間ニシテ少數ナル騎兵ノ勢力ヲ減殺スルヲ要ス故ニ一般ニ歩兵ヨリ勤務ノ繁劇ナルヲ覺悟セサルヘカラス

軍使、降參人其他ノ取扱亦歩兵ニ異ナラス其他騎兵前哨各部ノ勤務ニ就テハ本節ニ規定セラレタル外歩兵ノ爲ニ掲ケタル規定ヲ準用スルモノトス

第五篇　行軍

第一章　通則

第二百八　行軍ハ凡テノ作戰ノ基礎ヲ成スモノニシテ其實施ノ確實ナルハ諸般ノ

企圖ニ好果ヲ獲ルノ要素ナリ

行軍ト作戰トノ關係

彼我二國開戰ヲ宣スルヤ先ツ其軍隊ヲ戰場ニ集中ス之ヲ集中行軍ノ始トス此集中迅速ナルトキハ戰ハスシテ既ニ勝利ノ基礎ヲ成スハ普佛戰爭ノ普軍ノ行動ニ依リテモ明亮ナリトス

軍隊集中地ニ到著スルヤ敵ニ接近スル爲茲ニ行軍實施ノ新要求ヲ來シ之ニ連繫シテ戰鬪ハ開始セラルルニ至ル然ルトキハ一軍勝者ト爲リ一軍敗者ト爲ル敗者ハ勝者ノ鋭鋒ヲ避クル爲戰場ヲ離脫セントシ勝者ハ殲滅的追躡ノ爲之ニ跟隨シ戰鬪ハ又變シテ行軍ト爲ル故ニ戰役ノ過半ハ行軍ニ依リ成立スルモノトス即チ嶄新ナル戰鬪手段ハ銃劍ヲ用フルヨリモ寧ロ多ク其足ヲ用フルニ在リトノ奈翁ノ行軍要求ハ至言ナラサルヘカラス故ニ行軍ハ一面作戰ノ基礎ヲ形成シ一面作戰行動ノ大部ヲ占ムル重大事業ニシテ勝敗ノ根本的素因ハ一ニ行軍ノ實施法ノ如何ニ在リテ存ス

之ヲ日露戰役作戰ノ集中ニ見ルモ露軍ハ日本軍ノ如ク計畫完全ナラス一部ヲ鴨綠江畔ニ進メテ我行動ヲ遲滯セシメ主力ヲ遼陽附近ニ集中シ而シテ後攻勢ヲ取ラントシタルモ集中迅速ナラス其大部未タ鐵道輸送中ナリシヲ以テ一敗地ニ塗レ斷然退却ヲ決行スルニ終レリ之ヲ日本軍ノ迅速集中ヲ實施シ敵ノ劣勢ニ對シ滿洲軍ノ全部ヲ提ケテ攻勢ヲ取リシ作戰計畫ニ比シ其優劣果シテ如何ソヤ

更ニ之ヲ小局部ニ就テ言ハンニ第一軍ノ浪子山弓張嶺ノ戰ニ於テ近衛師團ハ約二倍ノ敵ト衝突シタルモ一般ノ形勢不利ニシテ戰況慘烈ヲ極メ危機切迫セルニ際シ安東縣ニ在リシ部隊ノ急行赴援ニ依リテ戰勢ヲ挽回シタルカ如キ或ハ奉天會戰ニ於テ第三軍ノ旅順方面ヨリ長時日困難ナル行軍ヲ連續シ又我滿洲軍ノ右翼ニ連繫セル鴨綠江軍ノ到著ニ依リテ敵ノ攻勢ヲ斷念セシメタルカ如キ行軍ノ作戰ニ影響スル大ナルヲ證スルニ足ル

行軍實施ニ關スル教訓

千八百六十六年戰ニ依リ得タルモルトケ將軍ノ經驗ニ基ク教令ニ曰ク『當時ノ

編成ニ依ル一軍團ノ戰鬪部隊ハ約二十吉米ノ行軍長徑ヲ有スルコト及戰鬪ノ爲兵力ヲ集結スルノ豫想ヲ以テ大兵力ヲ一道ニ行軍セシムルカ如キハ誤謬タルヘシ何トナレハ其正面ニ於テ得タル所ヲ長徑ニ於テ失ヒ八乃至十吉米ノ間隔ヲ以テ二箇ノ街道ヲ行軍スル二箇師團ノ容易ニ相援助スルヲ得ルニ如カサルヲ以テナリ』ト此理由ハ數縱隊ニ分レテ行軍スルコトノ大部隊ニ於テ如何ニ重要ナルカヲ知ルヲ得ヘシ所謂分進合擊ノ觀念ハ今日ト雖毫モ其價値ヲ減セス

其後モルトケ將軍ハ此見地ヨリ各兵種ハ形式ニ拘泥スルコトナク專ラ戰術的著眼點ニ依リ建制ヲ破ラサル如ク規正シ騎兵ハ正面前ニ使用シ砲兵ハ戰鬪參與ニ際シ速ニ其大部ヲ使用シ得ンカ爲勉メテ前方ニ位置セシメタリ而シテ戰備行軍ノ戰鬪準備ニ次キ特ニ軍隊ノ愛憎ヲ主張セリ

而シテ這回本令ノ改定ニ依リテ一言スヘキハ普佛戰役當時ニテハ戰時軍隊ノ爲スヘキ事業ノ大部分ハ行軍ニ在リシモ輓近各國著シク兵力增大シ一會戰後次ノ會戰ヲ準備スルニハ多クノ時日ヲ要スルニ至レリ從テ兩軍近ク相對峙シテ長時日ヲ經過セサルヘカラサルコト少ナカラス之ヲ日露戰役ニ徵スルモ明カナリ

即チ我第一軍ハ明治三十七年三月中旬鎭南浦ニ上陸シテ以來同三十八年三月十日奉天會戰ヲ終レルマテノ間實ニ十二箇月又第二軍ハ同三十七年五月初旬鹽大澳ニ上陸シ奉天會戰ヲ終ルマテ約十一箇月第四軍ハ同三十七年六月上旬第十師團ノ大孤山ニ上陸シ奉天會戰ヲ終ルマテ約十箇月トス而シテ此間大ナル會戰トシテハ第一軍ノ鴨綠江ノ戰鬪、本溪湖附近ヨリ樣子嶺附近ニ亘ル線ノ占領ニ次テ遼陽、沙河及奉天ノ會戰ニ過キス又全軍中比較的會戰ノ多キ第二軍ニ在リテモ南山、得利寺、大石橋、遼陽、沙河及奉天ノ會戰ニ過キス又第四軍ニ在リテハ岫巖、王家堡子附近ノ戰鬪ヨリ析木城、遼陽、沙河及奉天ノ會戰ニ過キサルヲ以テ見レハ此間軍隊ノ事業ノ大部ハ行軍ト駐軍トニ外ナラス此ヲ以テ舊令『戰時軍隊ノ爲スヘキ事業ノ大部分ハ行軍ニ在リ』ノ字句ヲ削除シテ舊來ノ行軍本位ヲ改メタルコト是レナリ

第二百九 平時行軍ニ慣熟シタル軍隊モ動員ニ方リテハ勞苦嚴格ノ鍛習ヲ失ヒタル在鄉兵及乘御輓曳ノ調教ヲ經サル徵發馬匹ノ加ハルカ爲メ大ニ行軍力ヲ減殺セラル故ニ動員ニ際シ苟モ練習ノ時間ヲ得ハ之ヲシテ行軍ニ習熟セシムルヲ圖ルヘ

シ就中徒歩兵ニ於テ此注意ヲ緊要トス

行軍力ノ養成

軍隊ハ平時ヨリ行軍力ノ增加ニ努力スト雖戰時動員ノ結果在鄕兵及乘御輓曳ノ調教ヲ經サル徵發馬匹ノ大部分之ニ加ハルヲ以テ平時教育ノ效果ハ玆ニ大頓挫ヲ來スハ古來戰史ノ證明スル處ナリ特ニ突然出發スル動員部隊ノ如キハ殆ント行軍ニ慣熟スルノ時機ナキニ至ル故ニ動員ニ際シ苟モ時機アレハ必ス行軍ヲ習熟セシメ若ハ營ノ內外ヲ行進セシメ以テ此缺陷ヲ補ハサルヘカラス民間ニ於テ靴ノ使用少キ我國軍ニ在リテハ殊ニ然リトス唯騎兵ハ平戰兩時馬匹ノ員數ニ大差ナキヲ以テ其戰鬪兵ノ行軍力ハ蓋シ之ヲ戰時ニ應用スルヲ得ン乎

獨逸ホーヘンローヘノ報告《千八百七十、七十一年戰》ニ曰ク近衞軍團ノ八月二十二日ヨリ三十一日ニ至ルメッツ、セダン間行軍ハ十日間ニ二百六十三吉米ヲ通過シタルニ五千乃至六千ノ行軍病患者ヲ生シタリ巴威里第一軍團ノ兵力ハ十二月中旬ニ於テ戰列步兵七千四百人ニ過キス吉米師團ノ尊稱ヲ有スルヴイッチヒ

師團スラ十月ヨリ十二月ニ渉ル行軍後ルマンス及ルーアルヲ經テ巴里ニ到リタルトキニ於ケル損害左ノ如シ

隊名	出征員	減耗		
		負傷者	入院患者	行李ニ在ル患者
步兵第三十二聯隊	一、五九九	四六八	七〇八	一三
同 第九十五聯隊	一、五八四	五四〇	五三九	五二
同 第八十三聯隊	一、三七八	六三八	四九五	四六
同 第九十四聯隊	一、三一〇	五四八	七三八	一七
輕騎兵第十三聯隊	三七八	不詳	一一五	三
計	六、二四九	二、一九四	二、五九五	一三一

ナリ而シテ此師團ハロアールル河畔ニ於テ僅ニ一回ノ戰鬪ニ參與シタルノミナリシ以テ行軍病ノ恐ルヘキヲ知ルニ足ル此種ノ減員ハ日露役ニ從軍シタルモノノ常ニ記憶ニ存スル處ナラン特ニ徒步者ヲ然リトス

第二百十 行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ人馬ノ衞生特ニ徒步兵ノ靴傷、馬匹ノ鞍傷及四肢

ノ疾病ニ注意シ又其給養ヲ良好ナラシムルハ行軍力ヲ保持シ且ツ之ヲ增進スルニ最モ有効ノ方法ナリ

兵卒及馬匹ニ就キ行軍中絆エス被服、裝具、蹄鐵ニ注意シ特ニ休憩中及宿營ニ於テ兵卒自ラ足部ノ保護、馬匹ノ愛護ニ關シ適當ノ注意ヲ爲スヤ否ヤヲ監察シ且ツ此等ノ事ヲ忽ニスル者ナカラシムルハ中隊長及之ニ準スル部隊長ノ責任トス

行軍中軍紀ヲ嚴格ニセサル可カラサル理由

行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ人馬ノ衞生特ニ徒步兵ノ靴傷、馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ニ注意シ給養ニ努メサルヘカラサルハ實戰ノ證明スル處ニシテ外國ニ於テモ固ヨリ同樣ナリトスクンツヨリ十一月《千八百七十—七十一年戰》下旬及十二月初旬ニ於テ特ニ巴威里第一軍團第十七、第二十二步兵師團ハ非常ナル努力ヲ爲シ日々七、八時間ノ行軍ヲ爲シ且ツ戰鬪シ雨ニ浴シ雪ニ打タレ而シテ雪解ニ苦メラレ天候惡ク給養不規則ニシテ而モ會戰ト眞面目ナル戰鬪トハ交互ニ發生セリ下士卒ノ宿營ニ就クハ多ク日沒後ニシテ其出發、亦拂曉前ナリ故ニ被服、裝具著シク損廢シ根本的手入ヲ爲スノ暇ナク軍袴ノ大部分ハ使用ニ堪ヘサルニ至リ脚絆ノ代

用トシテ軍袴、粗布袴、天鵞絨袴及佛軍脚絆ノ古品ヲ使用スルニ至レリ就中不良ナルハ軍靴ニシテ或者ハ藁ヲ塡メタル木靴ヲ穿チ或者ハ革草履ヲ有スルニ過キス而シテ多クハ長靴ヲ紛失セサル爲綱ヲ以テ之ヲ脚ニ結束セサルヘカラサルノ情況ナリシ之カ爲脚病患者著シク增大セリ是等患者ヲ車行セシムル爲輜重增大シ驚クヘキ行軍長徑ヲ成セリ

特ニ困難ヲ感セシハル、マンスニ向ヘル第二軍ノ前進ニシテ連續セル行軍ト夜暗ニ至ルマテノ戰鬪ハ殆ト軍隊ニ休養ヲ與フルノ暇ナク七日間ノ戰鬪ニ於テ軍ノ失ヒシ所ハ實ニ將校二百、下士卒三千二百ヲ算シ多クノ中隊ハ曹長之ヲ指揮セリ然レトモ間斷ナキ前進ハ人馬材料ノ補充ヲ爲スコト困難ニシテ嚴冬到リ降雪ト結氷ハ運動ヲ阻碍シ步兵ノ一部ハ麻脚絆ト破靴ヲ穿チ將校亦之ニ讓ラス道路不良、輸送機關績行セス將校ノ行李ハ勿論到著セス凡テノ困難ハ良心、忍耐、軍紀ニ依リ打チ克ツヲ得タリシト謂フ

又騎兵ノ行軍ハ不良ノ天候ニ依リ如何ニ給養ニ困難セシカハ特ニ巴丁親衞龍騎兵第二十聯隊ニ依リ證明セラル該騎兵ハ十二月一日《同戰役》以來寒氣殊ニ甚

シク降雪之ニ加ハリ各地方ノ徵發ハ殆ト盡キ糧食縱列ハ猛烈ナル降雪ノ爲ニ交通ヲ杜絕セラレ馬糧ハ四分一ノ燕麥ノミニシテ干草及藁ハ皆無ナリシヲ以テ馬匹ハ飢餓ノ爲多ク斃死セリ然レトモ行軍力ハ優良ニシテ積雪ノ街道上ニ於テ三十六時間ニ約二百吉米ノ行軍ヲ爲シ一月二十一、二日ヴエルデン軍團ト南方軍トノ連絡ハ遂ニ成レリ

野戰砲兵第七聯隊ハ千八百七十一年一月十二日ヨリ同十六日ニ至ル間荒寥タルランゲル高原ノ南部ヲ横過スルニ際シ積雪深クシテ往々破壞セル國道ヲ行軍セリ無數ノ溪流ハ此高原ヲ流下シテセーヌ及ソーヌ兩河ニ注入ス是等ノ溪流ハ行軍方向ヲ横斷スルヲ以テ峻嶮ナル坂路ヲ經テ是等深壑ヲ越エサルヘカラス爲ニ滑走甚シク軍隊ハ二倍ノ困難ヲ嘗メサルヘカラサリシ特ニ僻地ニシテ宿舍粗惡軍隊ハ連續行軍後大ニ休憩ヲ要シ下士卒ノ軍靴及蹄鐵ハ不良ノ狀態ニ在ルニ拘ラス依然トシテ行軍ヲ繼續セリ一月十五日ニハ寒氣零下十四度ニ達シ道路滑走ノ爲乘馬者ハ屢〻下馬シテ牽馬ヲ爲シ滑走シテ山ヲ下リタリ翌日ハ霜解ノ爲滑氷ヲ以テ蓋ハレ且ツ屈曲銳クシテ懸崖ニ沿ヘル道路ヲ通過シテ高原ニ登ルコト

頗ル多ク加フルニ颶風高原ヲ掃キ行軍益〻困難ヲ增大セリ

以上ノ如クナルヲ以テ出發前及出發後ハ勿論行軍途上ニ於テ精神ヲ鼓舞シ注意ヲ倍蓰シ其行軍力ヲ保持スルハ啻ニ中隊長及中隊長ニ準スル部隊長ノ責任ナルノミナラス上元帥ヨリ下一兵卒ニ至ルマテノ深ク顧慮スヘキコトトス之ヲ指揮官及部下ノ兩方面ニ區別シテ表示スレハ左ノ如シ

指揮官

一 軍紀ヲ嚴格ニス
二 被服、裝具、蹄鐵ヲ監察ス
三 衞生ニ注意ス
四 給養ニ注意ス
五 行軍計畫ヲ適當ニス
六 行軍實施ヲ適當ニス

部下

一 軍紀ヲ嚴守ス
二 被服裝具蹄鐵ニ注意ス
三 衞生上ノ注意ヲ守ル
四 給養上ノ注意ヲ守ル
五 行軍實施上ノ諸注意ヲ守ル

行軍中ノ軍紀

軍紀トハ軍隊成立ノ大本ニシテ幾萬ノ軍隊ヲシテ能ク一定ノ方針ニ從ヒ一致ノ運動ニ就カシメ以テ軍隊建制ノ目的ヲ達セシムル有形無形ノ綱紀ノ謂ヒニシテ行軍々紀ナル特種ノ軍紀アルニアラス從來作業軍紀ト謂ヒ射擊軍紀ト謂ヒ行軍軍紀ト謂ヒ將タ宿營軍紀ト謂フモノ皆是レ軍紀ノ抽象的名詞ニシテ其軍紀タルハ一ナリ

行軍々紀ヲ嚴格ナラシムルニ就テ之ヲ二樣ニ區別スレハ左ノ如シ

一　幹部ニ要求スヘキ軍紀

一　步度ヲ齊一ナラシムルコト

二　其行進ハ道路ノ一側或ハ兩側ニ於テスル等適當ニ時機ヲ誤ラサルコト

三　兵卒及馬匹ニ就キ行軍中絕エス監察シ行軍中及休憩中兵卒ノ適當ニ自ラ保護ヲ爲スヤ否ヤノ監察ヲ忽ニセサルコト

四　適度ノ飲湯、飲水及喫食ノ時機ヲ誤ラサルコト

五　服裝ヲ寬裕ナラシムルコト

二　兵卒ニ要求スヘキ軍紀

一　步度ヲ齊一ニシ距離、間隔ヲ伸縮セサルコトハ幹部ノ注意ヲ待タサルコト

二　前後ニ重疊シ縱隊面ヲ擴張セサルコト

三　各人恣ニ定位ヲ離レサルコト

四　被服、裝具ノ著裝ヲ確實ニシ蹄鐵ニ注意スルコト

五　行軍中及休憩中絕エス自己及馬匹ノ保護ト衞生ニ注意シ徒步者ニ在リテハ靴傷、乘馬者ニ在リテハ鞍傷及四肢ノ疾病ヲ豫防スルコト

六　其他特別ノ指定ヲ嚴守スルコト

以上注意事項ニ就テ特ニ砲車長ノ行軍間ニ於ケル注意要件ヲ列記スレハ概ネ左ノ如シ

其一　行進間砲車長ノ注意ニ就テ

一　能ク前方ニ重ナリテ步度ヲ齊一ナラシムルコト

二　砲車ノ前後ニ在リテ監視シ其監視ノミナルトキハ後方ニ、誘導ヲ要スルトキハ先頭ニ在ルコト

三　成ルヘク姿勢ヲ崩サシメサルコト

四　蹄鐵其他馬裝及砲車材料ニ異狀ナキヤ否ヤ

其二　休憩間砲車長ノ注意ニ就テ

一　要スレハ砲手ヲシテ背嚢ヲ卸サシムルコト

二　馬體殊ニ輓馬具ノ觸接スル部分ヲ檢シ緩喉革及轡鎖ヲ脫シ腹帶ヲ緊メ馬裝ノ不正ヲ整ヘシメ馭者ヲシテ汗及顏面ノ塵埃ヲ拭ハシメ又ハ蹄ヲ掘ラシムルコト

若シ擦傷等アレハ手當ヲ加ヘ小隊長ニ報告スルコト

三　砲手ヲシテ東藁、水嚢或ハ雜巾、鐵篦ヲ驂馬旅嚢又ハ驂馬鞍ヨリ出サシメ東藁一箇ヲ取リ他ヲ馭者ニ交付セシムルコト

四　馭者及砲手ハ右手入ヲ終レハ東藁ノ手入ヲ爲サシムルコト

五　砲手一名ヲシテ材料及積載品ノ檢査ヲ爲シ塵埃ヲ拂ヒ泥土ヲ去ラシムルコト

六　砲手ヲシテ豫メ區分セル所ニ從ヒ驂馬及砲車長馬、馭者ヲシテ副馬ノ蹄

鐵ヲ檢査セシメ要スレハ緊釘等ノコトヲ爲サシムルコト

七　朝飼ノ殘リヲ食セシメ又附近ノ草ヲ與フルコト

八　馭者ヲシテ水ヲ汲ミ來リテ水飼セシメ殘餘ノ水ハ雜巾ヲ洗ヒ又ハ蹄ヲ洗ハシムルコト

九　馬ヲ放タシメス單乘馬ヲ縱隊面外ニ出ササルコト

十　馭者及砲手ヲシテ帽ヲ脫セシメ頭部ヲ冷却セシムルコト

十一　砲手ヲシテ或ハ靴ヲ脫シテ足ヲ冷却セシメ或ハ靴下ヲ整理シ靴傷ヲ豫防セシムルコト

十二　水筒ノ充實及洗面ヲ爲サシムルコト

之ヲ要スルニ前述ノ如ク行軍々紀ヲ嚴格ニシ人馬ノ衞生特ニ步兵ノ靴傷馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ニ深ク注意シ又一方ニ於テハ給養ヲ良好ナラシメ全力ヲ盡シテ行軍力ヲ保持增進セシムルニ在リ又被服、裝具、蹄鐵ニ注意シ休憩中及宿營間ニ於テ兵卒自カラ適當ノ保護ヲ講シ馬匹ヲ愛護シ又幹部ハ之カ監察ヲ怠ラサリセハ其要求ヲ充タシ得ヘシ是中隊長及之ニ準スル部隊長ノ最モ大ナル責任ナリ

トス

第二百十一　行軍ニ慣熟シタル軍隊ニシテ各人深ク注意シ勉メテ徒勞ヲ避クレハ永ク缺員ヲ生セスシテ行軍スルヲ得ヘシ

行軍ニ於ケル徒勞

行軍ニ於ケル徒勞トハ各人無益ニ體力及精神ヲ使用セサルノ謂ヒニシテ一人ノ便宜ヲ以テ軍隊全體ノ損害ヲ招カサルニ在リ又昂奮セル時機ニ於テハ各人思ハス必要以外ノ勞苦ヲ敢テシ之ヲ介意セサルモ後非常ノ疲勞ヲ來スモノナルヲ以テ終始平等ニ心身ヲ役シ其出發前及當初ニ於テハ殊ニ將來ヲ慮リ多大ノ注意ヲ拂フト同時ニ行軍間及翌日出發前夜ノ諸注意ヲ履行シ一時ニ疲勞スルナキヲ要ス然ルトキハ永ク缺員ヲ生セス行軍ヲ實施スルヲ得ヘシ

第二章　行軍ノ種類

第二百十二　旅次行軍ハ敵ニ觸接スヘキ虞ナキ時ニ於テ行フモノニシテ主トシテ

軍隊ヲ休養スルコトニ顧慮スルモノトス之カ爲メ有効ナル方法ハ軍隊ヲ分ツテ小ナル編合部隊ト爲シ或ハ各部隊毎ニ行進セシメ且ツ各自其宿營地ヨリ宿營地ニ至ル最近且ツ便利ノ道路ヲ取ラシムルニ在リ蓋シ行軍縱隊ノ大ナルニ應シテ撞著ヲ起スコト愈々多ク其影響モ亦從ヒテ甚シク且ツ夏季ニ於テハ炎熱ノ害ヲ受クルコト益々大ナレハナリ

行軍ノ名稱

行軍ヲ種別シテ左ノ名稱ヲ附ス

一　旅次行軍
敵ニ觸接スヘキ虞ナキトキニ於テ行フモノ

二　戰備行軍
敵ト觸接スヘキ虞アルトキニ於テ行フモノ

三　急行軍及强行軍
旅次ト戰備トヲ問ハス急行又ハ强行ノ必要アルトキニ於テ行フモノヲ謂フ而シテ急行トハ行程ヲ急クノ意ニシテ强行トハ一日ノ行程ヲ增大シテ行

軍スルノ意ナリ故ニ急行軍ハ距離ノ如何ヲ問ハス

四　夜行軍

強行軍ノ一種トシテ夜間モ行進ヲ繼續スルトキ或ハ對敵行動ヲ秘匿スルトキ若ハ旅次ト戰備トヲ問ハス晝間ノ行軍ニ代ユルトキ行フモノ

以上一及二ハ敵ノ遠近ニ依リ、三及四ハ速度並方法ニ依ル種別トス

旅次行軍ト戰備行軍ノ差異

一　戰備行軍ハ警戒ノ爲疲勞ヲ增大スルモ旅行行軍ハ左ルコトナシ

二　戰備行軍ハ一日行程ノ長短ハ時機ニ應スヘキモノナルヲ以テ甚シク異ナルモ旅次行軍ハ日々ノ行程ヲ成ルヘク均一ナラシム

三　戰備行軍ハ行軍縱隊ニ在ル軍隊ヲ集結スルヲ要スルモ旅次行軍ハ行進ヲ遲滯セシメサル爲疎間ノ縱隊ヲ用フ

四　戰備行軍ハ戰鬪ニ使用スル順序ノ縱隊ヲ要スルモ旅次行軍ハ軍隊ヲ分チテ小ナル編合部隊ト爲シ或ハ各部隊毎ニ各異ノ道路ヲ行進セシムルヲ可トス

五　戰備行軍ハ步兵ノ小行李砲兵ノ段列、工兵ノ小行李ヲ伴ヒ大行李ヲ跟隨セシムルヲ原則トシ旅次行軍ハ行軍ヲ容易ナラシムル爲行李ハ縱隊ヨリ分離シテ後方ニ跟隨スルカ若ハ遠ク縱隊ノ前方ニ行進セシム

六　戰備行軍ハ嚴密ナル警戒ヲ必要トシ旅次行軍ハ其必要ナシ

旅次行軍實施ノ要領

旅次行軍ハ休養ヲ專ラトシ百般ノ事悉ク寬裕ナルヲ要ス之カ爲左ノ諸件ニ顧慮スルヲ可トス

一　行軍容易ノ爲

一　軍隊ヲ小ナル編合部隊ト爲シ行進セシムルコト

二　隊間距離ヲ大ニスルコト

三　步兵ハ成ルヘク良好ノ捷路ヲ取ラシムルコト

四　騎兵ハ多少ノ迂路ト爲ルモ稍〻軟質ノ道路ヲ取ラシムルコト

五　砲兵ハ工術ヲ施シタル堅硬ナル街道ヲ取ラシムルコト

六 徒歩兵、乘馬兵、車輛ヲシテ相連繫スルコトナク各自ノ歩度ヲ取ラシムルコト

七 沿道ニ先發者ヲ派シテ、飲水、休憩ノ位置ヲ選定シ置クコト

八 人民或ハ工兵ヲシテ道路ヲ補修セシムルコト

九 日々ノ行程ハ略〻同一ナラシムルコト

十 休憩時ヲ多クシ天候、季節ニ對シ十分ノ保護ヲ與フルコト

二 宿營給養ノ便利

一 出發時刻過早ナラス睡眠時多キコト但シ炎勢時ハ此限ニアラス

二 宿營地ハ廣濶ニシテ給養豐富ナルコト

三 宿營ノ準備ヲ整頓シ直ニ就宿シ得ヘキコト

四 軍需品ヲ調辨セシムル爲豫メ經理官ヲ先遣スルコト

五 要スレハ大行李及屬員ヲ先遣シ炊爨ヲ速ニスルコト

三 衛生ノ適當

一 天候、季節ニ對スル處置ヲ適當ニシ炎熱、沍寒ヲ輕減スルコト

二 衛生部員ヲ先遣シ休憩地及宿營地ノ飲水並惡疫ヲ檢セシムルコト

三 休憩地ノ選定ヲ適當ニシ飲水及煮沸水ヲ準備セシムルコト

四 要スレハ眼鏡、眼鏡、帽ノ垂布或ハ耳蓋ヲ給スルコト

之ヲ要スルニ旅次行軍實施ノ要訣ハ特ニ行進ノ迅速ヲ要セサル限リハ勉メテ兵ノ體力ヲ保持スルニ在リトス惟フニ必要ノ場合ニ臨ミ非常ノ努力ハ適當ニ體力ヲ愛惜セラレタル軍隊ニ之ヲ要求シ得ルモノトス此故ヲ以テ直接敵ニ對スル顧慮ヲ要セサル集中行軍又ハ第一線ノ内部ニ於ケル軍隊ノ移動ニ在テハ休養ノ顧慮ヲ以テ主眼ト爲シ勉メテ行進ヲ容易ニシ宿營、給養ニ便ナラシムルモノトス

行軍計畫ニ具備スヘキ要件

行軍ノ種類如何ニ關セス其計畫ノ良否ハ以テ其成果ニ至大ノ影響ヲ來スモノトス故ニ之カ畫定ニハ情況、軍隊ノ狀態、地形、天候、季節ヲ顧慮スルヲ要ス其顧慮スヘキ要件概ネ左ノ如シ

一 軍隊區分

二　出發點並出發時刻
三　經路
四　休憩法及其地點
五　到著點
六　宿營地並宿營法
七　給養並補充
八　背嚢其他ノ運搬等特別ノ處置

旅次行軍命令ノ一例

數日間ニ渉ル旅次行軍ノ命令ニ在テハ通常行軍計畫表《爲シ得レハ目標地ニ於ケル宿營計畫表ヲモ添付スルヲ可トス》ヲ附錄トシテ添フルモノトス此計畫表ニハ行軍ノ諸件ヲ包含セシムルヲ以テ其命令文章ハ極メテ單簡ニテ可ナリ例ヘハ

第何師團命令

月日時
於何地師團司令部

一　敵ハ云々《要スルトキノミ》
軍ハ某河左岸地區ニ開進運動中ナリ
二　師團ハ來ル何日ヨリ運動ヲ開始シ別紙計畫表ニ依リ何地ニ向ヒ前進セントス
三　諸部隊ハ別紙計畫表ニ基キ前進スヘシ
四　予ハ何日出發第何梯隊ト共ニ某地ニ到ル

戰備行軍

戰備行軍ト雖軍隊ノ休養ヲ顧慮スヘキハ勿論ナルモ主トシテ戰術上ノ編合及目的ニ合スルヲ要ス而シテ警戒部隊ニアラサル後方梯隊ハ敵ヲ距ル益〻遠キニ從ヒ半戰備半旅次ノ姿勢ニ在リテ行軍スルヲ得ヘシ故ニ警戒隊ハ數〻交代シテ休養ノ平均ヲ圖ラサルヘカラス戰備行軍ニ關スル命令ノ記述法ハ第二篇第二章ニ明示スル所ノ如シ

第二百十四　旅次行軍ト戰備行軍トヲ問ハス情況ニ依リ急行若クハ強行ヲ必要トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ行軍間ノ休日ヲ廢シ且ツ其行程ヲ增大シ或ハ

爲シ得ル限リ休憩時間ヲ減少シ尙夜間ニ於テモ行軍ヲ繼續スルモノトス
夜行軍ハ右ノ外敵ニ對シ我行動ヲ秘匿スル爲メ又ハ往々炎熱時ニ於テ晝間ノ行軍ニ代ヘ之ヲ行フコトアリ

情況ニ依ル行軍ノ種類

旅次行軍ト戰備行軍トヲ問ハス情況ニ依リ普通ノ行程《從來常行軍ト稱セシモノ》以外ニ急行若ハ强行スル行軍アリ即チ急行軍ハ其字ノ如ク急速ヲ要スル行軍ニシテ假ヘハ其距離ハ極メテ近シト雖其行程ヲ急行スルノ意ニシテ距離ノ遠近ハ問フ所ニアラス唯急速ナル行軍ヲ稱シテ急行軍ト謂フ强行軍トハ一日ノ行程ヲ增大シテ行軍スルヲ謂フ

即チ普通一日約六里ノ行軍ヲ爲スニ對シ其行程ヲ增大シ十里ヲ行軍スルカ如キ是ナリ以上二種ノ行軍ハ戰術的要求ニ依リ迅速ニ戰場ニ進ミテ戰鬪ニ參與セントスルトキ或ハ一擧ニ某地點マテ急速ニ退却ヲ要スルカ如キ例外ノ場合ニ於テノミ採用スルモノトス

夜行軍ハ晝間ノ行軍ニ對シ命名シタル行軍ニシテ左ノ場合ニ行フモノトス

一　我行動ヲ秘匿セントスルトキ
一　敵ノ視目ヲ避ケ軍隊ヲ移動センントスルトキ
二　夜暗ニ乘シ隱密ニ敵ニ接近シ急襲ヲ行ハントスルトキ
三　夜暗ヲ利用シ敵ノ陣地前ニ到著シ拂曉攻擊ノ準備位置ヲ占領セントスルトキ
四　優勢ナル敵ノ攻擊若ハ追擊ヲ免レントスルトキ

二　强行ヲ要スルトキ
一　强行ヲ以テ夜間モ行軍ヲ繼續シ目的點ニ到著セントスルトキ
二　晝夜連續シテ敵ヲ追擊スルトキ
三　敵ノ追擊ヲ離脫セントスルトキ

三　衞生上ノ顧慮即チ炎熱時ニ於テ晝間ノ行軍ニ代フルトキ

等ニシテ此種ノ行軍ハ非常ナル勞力ヲ要ス輓近火器ノ效力益〻精巧ト爲リ且ツ航空機ノ發達顯著ニシテ之ヲ軍用ニ使用セラルルノ今日夜間ヲ利用シテ火器ノ效力ヲ減殺スルヲ圖ルト同時ニ空中ヨリスル敵ノ視目ヲ避ル必要上夜間ノ行動

ハ將來益〻多キヲ加ヘ陣地ニ對スル攻擊運動ニ於テ殊ニ然ルヘシ故ニ將來夜行軍ノ要求蓋シ益〻多キヲ加フルニ至ルヤ明カナリ

强行軍ノ例

明治三十七年沙河會戰ノ初期即チ十月九日在安東縣後備步兵第十一聯隊ハ成ルヘク多數ノ兵力ヲ鳳凰城ニ集合スヘキ命ニ接シ十日午前六時安東縣ヲ出發セリ然ルニ午前六時二十分更ニ晝夜兼行連山關ニ到リ滿洲軍司令官ノ指揮ヲ受クヘキ電報命令ヲ受領シ夜來降雨ノ爲生セシ泥濘ヲ冒シ十一日午前二時ヨリ同五時三十分マテノ間ニ鳳凰城ニ到著ス此行程約十五里、十一日午前六時乃至七時ニ鳳凰城出發礫石露出セル道路ヲ行クコト約十里、午後十時三十分ヨリ十二日午前四時頃マテノ間ニ於テ林家臺ニ到著、十二日午前五時三十分林家臺出發途中砂塵裡ヲ行クコト約九里、午後十時ヨリ十三日午前一時ノ間ニ於テ連山關ニ達ス然ルニ更ニ橋頭ニ到ルヘキ命令ニ接シ午前六時三十分同地出發河川ヲ徒涉スルコト約三十、十四日午前一時ヨリ午前九時ノ間橋頭ニ達ス此行程約八里然ルニ亦本溪

湖ニ急行スヘキ第一軍命令ニ接シ午前十一時三十分橋頭出發午後七時唐家庄子附近ニ到著シ同夜戰鬪命令ヲ受領セリ

行軍間ノ休日《第六篇戰時ノ休日參照》

行軍ハ作戰上ノ要求ヲ基礎トシテ行フモノナルヲ以テ其目的ヲ達スルマテ連續シテ之ヲ施行セサルヘカラス

然レトモ連續スル行軍間ニハ人馬ノ給養、被服、裝具ノ修理及蹄鐵ノ改裝等ヲ要スルハ復タ言ヲ要セス此故ヲ以テ

旅次行軍ニ在リテハ行軍計畫ニ休日ヲ通常第四日目ニ豫定シ置キ情況何等ノ支障ナク旅次行軍ヲ連續シ得ルトキハ此日ニ於テ休日ヲ與フルヲ普通トス之ニ反シ

戰備行軍ニ在リテハ其目的ヲ達成スルマテ連續行軍ヲ施行シ一時休養上ノ顧慮ヲ放棄セサルヘカラサルヲ以テ休日ヲ豫定シ其豫定日ニ於テ休日ヲ與フルカ如キコトハ到底之ヲ許ササルモノトス

第三章　行軍隊形

行軍隊形規定ノ要旨

行軍隊形ヲ規定スルノ要旨ハ次ノ二要件ノ外ニ出テサルヘシ

一　成ルヘク人馬ノ疲勞ヲ輕減シ得ル隊形ナルヲ要ス

二　行軍縱隊ヲシテ戰鬪ノ爲迅速ニ展開スルニ必要ナル限界ヲ超ヘシメサルヲ要ス

第一項ノミニ適合セシメントセハ伍間疎開シタル一列ノモノヲ可トスレトモ此ノ如クスルトキハ縱長甚シク長延ト爲リ第二要件ニ適合セサルニ至ル之ニ反シ第二項ニ偏スルトキハ人馬ノ疲勞甚大長時間ノ行軍ニ適セサルニ至ル故ニ以上ノ二要件ヲ適當ニ斟酌シ且ツ地形殊ニ道路ノ狀態ヲ顧慮シ以テ爲シ得ル限リ成ルヘク人馬ノ疲勞ヲ輕減シ得ル程度ニ於テ過度ニ延長セサル如ク規定スヘキモノトス

以上ノ要件ニ基キ本邦ニ於ケル行軍隊形ハ地形及道路ノ狀態ニ依ルト雖主ト

シテ本章ノ條下ニ明示シ在ル如ク步兵、工兵並其他ノ徒步兵ニ在リテハ四列ノ側面縱隊、騎兵ニ在リテハ四伍若ハ二伍縱隊、砲兵ハ砲車縱隊、行李、輜重ハ一伍縱隊トシテ爲リ行進スルモノトス

第二百十五　步兵ノ行軍隊形ハ側面縱隊トス

行軍中ハ下士、缺伍ノ兵卒、上等看護卒等モ皆四人ヲ以テ一伍ヲ作ルヘシ喇叭手ノ位置ハ大隊長之ヲ定ム其中一人ノ喇叭手ヲ大隊(或ハ獨立中隊)ノ後尾ニ行進セシムヘシ是レ道路ノ一側ヲ虛ウスルコト殊ニ須要ナルトキハ附近ニ在ル將校ノ指示ニ依リ「右」或ハ「左」ノ譜ヲ吹奏セシメンカ爲メナリ此號音ヲ聞クトキハ行軍縱隊中ノ諸兵ハ之ニ從ヒ嚴ニ其一側ニ偏スヘキモノトス

中隊長及小隊長ハ行軍中其中隊若クハ小隊ヲ監視スルニ便利ナル位置ニ在ルヘシ然レトモ一將校ハ中隊ノ後尾ニ在リテ行進スヘシ

步兵機關銃隊ノ行軍隊形ハ縱隊トシ銃隊長以下ノ位置ニ關シテハ步兵中隊ニ準ス而シテ警戒上妨ケナケレハ銃手及彈藥小隊ノ兵卒(馭卒ヲ除ク)ヲ先頭ニ集メテ行進セシムルコトアリ喇叭手、上等看護卒等ノ位置ハ步兵隊ニ準シ銃隊長之ヲ定ムルモノトス

第二百十六　騎兵ノ行軍隊形ハ四伍縱隊若クハ二伍縱隊トス

中隊長ハ其中隊若クハ小隊ヲ監視スルニ便利ナル位置ニ在ルヘシ而シテ中隊ノ後

尾ニハ時宜ニ依リ歩兵ト同シク將校及喇叭手各一人ヲ行進セシムルコトアリ
騎兵機關銃隊ノ行軍隊形ハ縱隊トス

此項ニ於テ新ニ機關銃隊ノ行軍隊形ヲ示サレタリ即チ機關銃隊ハ縱隊ヲ以テ行軍隊形ト爲シ銃隊長以下ハ其位置ハ歩兵中隊ニ準シ若警戒上妨ケナキトキハ銃手彈藥小隊ノ兵卒ヲ先頭ニ集メ行進セシム是レ疲勞ヲ減セシメンカ爲ナリ然レトモ馭卒ハ常ニ馱馬ノ側ニ位置スルモノトス又喇叭手及上等看護卒等ノ位置ハ歩兵中隊ト同樣ニ銃隊長ニ於テ之ヲ定ムルモノトセラレタリ

第二百十七 砲兵ノ行軍隊形ハ砲車縱隊トス
中隊長及小隊長ハ其中隊若クハ小隊ヲ監視スルニ便利ナル位置ニ在ルヘシ然レトモ一將校ハ通常中隊ノ後尾ニ在リテ行進スルモノトス砲車長及其他ノ諸長ハ其車(馬)ノ前後ニ在リテ行進スルコトヲ得
砲手ハ警戒上妨ケナケレハ其大部ヲ中隊ノ先頭ニ集メテ行進セシムルコトアリ
中隊ノ後尾ニハ通常歩兵ト同シク喇叭手一人ヲ置クモノトス

第二百十八 工兵ノ行軍隊形ニ關シテハ歩兵ノ爲メニ規定シタルモノニ準ス但シ小隊長及特務曹長ノ位置ハ中隊長之ヲ定ムルモノトス

第二百十九 「速歩」(徒歩兵種)又ハ「氣ヲ著ケ」(乘馬兵種)ヲ以テ行進スルトキハ通常各人ハ操典ニ定ムル位置ヲ占メ中隊長ハ其中隊ノ先頭ニ在ルモノトス

『速歩』又ハ『氣ヲ著ケ』ニテ行進スルトキ通常各人ハ操典ニ定ムル位置ヲ占メ中隊長ハ先頭ニ在リテ行進スト定メラレタルハ必ス操典ニ規定セラレタル位置ニ限リ得サルヲ以テナリ

行進間諸官ノ位置

本令規定ノ行軍隊形ハ專ラ本邦道路ノ路幅ニ依リ規定シタルモノトス故ニ本邦以上路幅廣大ナルトキハ固ヨリ適宜廣正面ノ隊形ヲ採用シ其縱長ヲ短縮スルヲ得ヘシ

本邦道路ハ歩兵ノ側面、砲兵ノ砲車縱隊ニテモ往々其行進ヲ遲滯スル箇所ナキニアラサルヲ以テ歩兵ノ缺伍、砲兵ノ諸車長等ハ必ス其縱隊内ニ在リ左右ニ疎開セサルヲ要ス即チ少クモ單行セル乘馬傳令ノ通過シ得ルノ餘地ヲ存セシメサルヘカラス而シテ中隊内諸隊長ハ其部下監視ニ便ナル位置ニ在リテ行進スルモ上

述ノ要旨ニ依リ亦縱隊面外ニ脫離セサルヲ努メサルヘカラス特ニ徒步兵ニ在リテハ一名ノ將校ヲ中隊ノ後尾ニ行進セシメ落伍者ノ激勵收拾ニ努メ且ツ後方ヨリ中隊全般ノ行軍軍紀ヲ監視シ併セテ後方ヨリ來ル部隊及隊長、傳令等ニ行進ノ自由ヲ與フル爲號音ヲ吹奏セシムル義務ヲ有ス然レトモ騎兵ハ乘馬者ノミナルヲ以テ通常將校ヲ後方ニ置クノ必要ナシ行進困難、人馬疲勞シ在ルトキハ此限ニアラス

工兵ハ步兵ニ準スルモ其特務曹長以上ハ乘馬ナルノミナラス道路ノ障碍ヲ除去シ進路ヲ偵察スル等先遣者ヲ要シ又中隊ノ小行李ヲ監視セシムル等步兵及砲兵ト趣ヲ異ニスルヲ以テ小隊長及特曹務長ノ位置ハ中隊長ノ指示ニ從フモノトス

『速步』又ハ『氣ヲ著ケ』ノ場合ハ市街ノ美觀的行進或ハ陣地進入等ハ戰術的動作ナルヲ以テ諸官ハ先頭ニ在リテ誘導スルヲ可トス

短縮シタル行軍縱隊ノ例

明治三十八年二月乃木大將ハ露軍ノ右翼ヲ包圍スル爲其軍ヲ前進セシムルニ方リ各師團ヲシテ短縮セル行軍隊形ヲ取ラシメタリ一般ニ砲兵ハ二縱隊ト爲リ步兵ハ八伍縱隊ヲ以テ行軍セリ凡テノ道路ヲ利用スルコト、正面ニ於テ十分ナル展開面ヲ存スルコト、翼側ニ向フ展開ヲ迅速ナラシムルコト等ハ將來大兵團ノ行軍部署ヲ爲スニ方リ實際要求スヘキコトトス大將ノ行爲ハ行軍長徑ヲ短縮シ軍隊ヲ狹小ノ地區ニ集結スルニ與テ力アリタリ

第四章　行軍準備

第二百二十　行軍ニ際シ徒勞ヲ避クルニハ特ニ出發時刻及出發ノ爲メ集合方法ノ規定ニ注意スルヲ要ス

大部隊ナシテ一ノ集合場ヨリ逐次一隊毎ニ出發セシムヘキトキハ出發ノ順序ニ應シ、集合場ニ到著スヘキ順序ヲ適當ニ規定スルヲ要ス而シテ合シテ一縱隊ト爲ルヘキ各部隊ハ行軍スヘキ方向ニ於テ集合セシムルヲ原則トス

行軍ニ關スル命令ヲ作爲スルニハ各部隊ノ行軍長徑(附錄第四參看)、行進速度及其集合場ニ至ル距離ニ顧慮スルヲ要ス

行軍ニ關スル命令作爲ノ基礎

行軍命令作爲ハ行軍長徑、行進速度、集合場ニ至ル距離ニ顧慮ヲ要スルモノトス」之カ爲過早ノ出發、後退ノ集合法ハ徒勞ヲ來スヲ以テ絶對ニ禁止セサルヘカラス故ニ大部隊ニ在リテ一集合場ヨリ逐次一隊毎ニ出發セシムルトキハ上記三要素ヲ計算シ逐次撞著ナク集合場ニ到著スヘキ順序ヲ行軍方向ニ規定スルヲ原則トス

出發ノ爲ノ集合方法

日出、日沒ヲ顧慮シ軍隊ヲシテ行軍ニ要セサル徒勞ヲ避ケシメンカ爲ノ方法種々アリト雖其集合法ハ蓋シ左ノ五種ノ外ニ出テサルヘシ

一　諸隊ヲシテ一旦集合場ニ集合セシメ更ニ行軍縱隊ニ移ラシムル方法《小部隊ニ適用スルヲ普通トス》

二　諸隊ヲシテ途上縱隊ニ集合セシメ直ニ出發セシムル方法《小部隊ニ適用スルヲ普通トス》

以上第一、第二ノ場合ニ在リテハ出發時稍〻前指定ノ位置ニ在ラシムレハ可ナルモ以下第三、第四、第五ノ場合ニ在リテハ各部隊ヲシテ行軍縱隊ノ序列ニ入ラシムル爲過早ニ出發シ無益ニ駐止スルノ徒勞ヲ爲サシムルコト在ルヘカラス

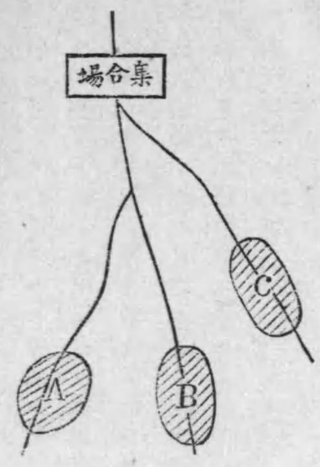
三　諸隊ヲシテ逐次集合場ニ集合シ到著順序ニ出發セシムル方法《大部隊狹小ナル地域ニ宿營シタル場合ニ適用スルヲ普通トス》

四　諸隊ヲシテ行軍スヘキ方向ニ於テ自然ニ行軍序列ニ入ラシムル方法《大部隊ニシテ散在宿營スル場合ニ適用スルヲ普通トス》

五　諸隊ヲシテ行軍路ニ沿ヒ數群ニ集合シ各群ヲシテ綿密ニ規定シタル時間ニ於テ一齊ニ行進ヲ起サシムル方法《行進方向ニ從ヒ縱長ニ宿營シタル場合ニ適用スルヲ普通トス》

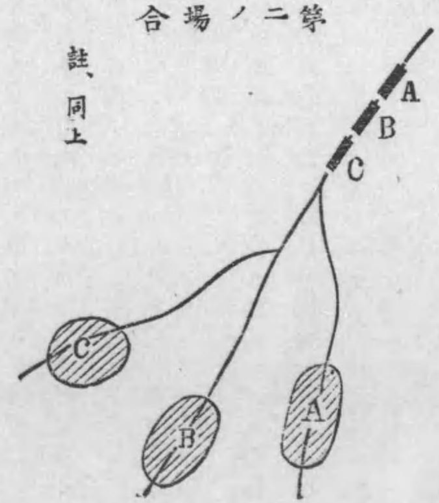
前項第一、第二ノ場合

第一ノ場合



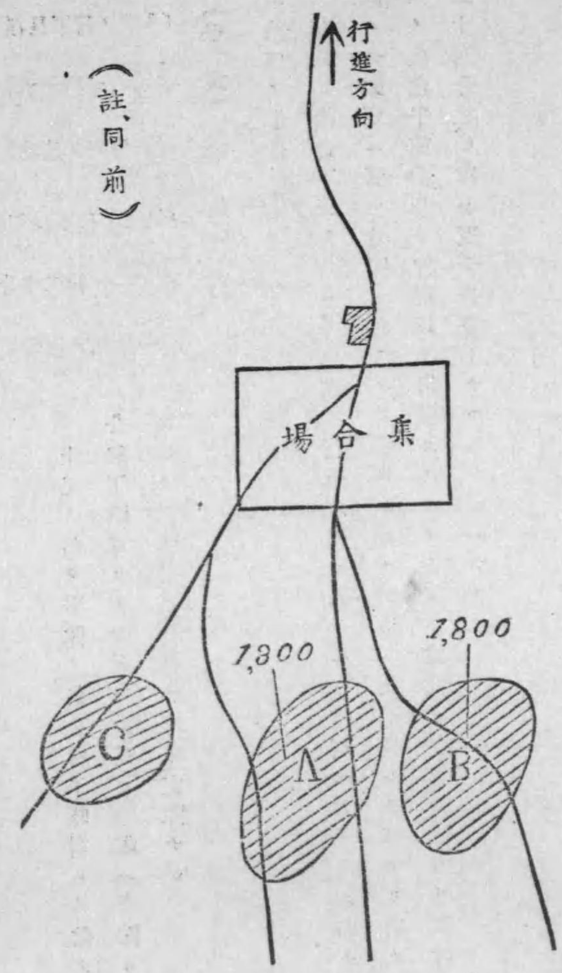
註、A、B、C等ハ該村落ニ宿營シタル部隊ヲホスモノトス

第二ノ場合



註、同上

前項第三ノ場合



（註、同前）

前圖ノ如キ場合B隊ノ集合ハA隊ノ集合ヨリ又C隊ノ集合ハB隊ノ集合ヨ

リ後レテ差支ナキコト左ノ如シ

《甲式》 《A隊ノ行軍長徑》 ⋮ $\frac{1.300}{86}$ ⋮ 《一分間ノ速度》 ＝約十五分

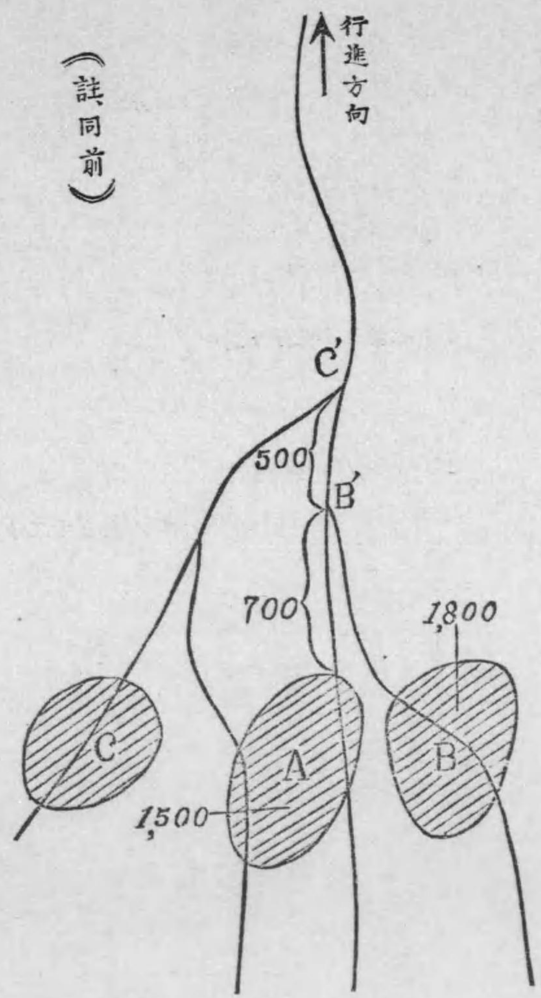
《乙式》 《B隊ノ行軍長徑》 ⋮ $\frac{1.800}{86}$ ⋮ 《一分間ノ速度》 ＝約二十分

上記ノ如クB隊ノ集合終了時刻ハA隊ノ集合終了時刻ヨリ十五分《甲式》又C隊ハB隊ヨリモ尚ホ二十分《乙式》後ナルモ支障ナシ

前項第四ノ場合

左圖ノ場合ニ在リテハB′C′隊ノ行軍序列ニ入ルヘキ時刻ニ差ヲ生ス即チC隊ノ先頭C′ニ到ル時間ハB隊ノ先頭B′ニ到ル時間ニ比シ後レテ可ナリ即チA隊ノ先頭午前七時A村南端ヲ出發スルモノトセハ左式ノ如クA隊ヨリB隊ハ二十五分後C′隊ハ五十分後トナルヘケレハナリ

《註同前》



前項第五ノ場合

B隊ノ先頭B′ニ到ル時間ハ

(1.500＋700)÷86＝約二十五分

- 1.500：A隊ノ行軍長徑
- 700：B′Aニ到ル距離（村ノ南端ヨリ）
- 86：一分間ノ速度

故ニ七時二十五分ト爲ル

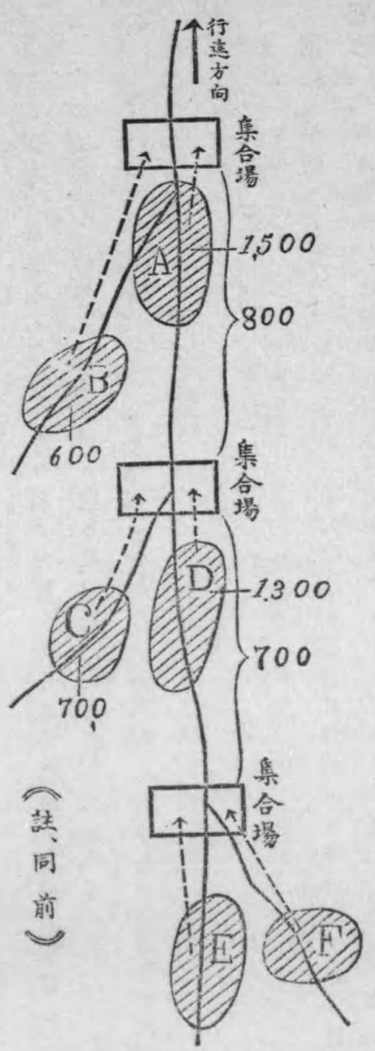
C隊ノ先頭C′ニ到ル時間ハ

(1.500＋700＋1.800＋500)÷86＝約五十二分

- 1.500：A隊ノ行軍長徑
- 700：ニAニ到ル距離（村南端ヨリB′）
- 1.800：B隊ノ行軍長徑
- 500：B′C′間ノ距離

故ニ七時五十分ト爲ル

上圖ノ如キ場合ニ在リテ全諸隊ヲ一縱隊ト爲シテ出發セントスルトキハC、D隊ノ集合ハ甲式ニ依リA、B隊ノ集合ヨリ約十五分間後又E、F隊ノ集合ハ乙式ニ依リC、D隊ノ集合ヨリ約十五分間後ナラシムルヲ要スルカ如シ



（註、同前）

(1.500＋600－800)÷86＝……一分間ノ速度
……A、B隊トC、D隊集合場間ノ距離
……B隊ノ行軍長徑
……A隊ノ行軍長徑

即チ約十五分

《乙　式》

(700＋1.300－700)÷86＝……一分間ノ速度
……C、D隊トE、F隊集合場間ノ距離
……D隊ノ行軍長徑
……C隊ノ行軍長徑

即チ約十五分

軍隊ノ集合方法上來ノ如クナルヲ以テ部隊ノ大小及宿營地ノ狀態ヲ顧慮シ其最モ有利ノ方法ヲ採用シ以テ出發ニ際シ軍隊ノ徒勞混雜ヲ避ケシムルコトニ注意セサルヘカラス此故ヲ以テ行軍ニ關スル命令ハ各部隊ノ行軍長徑《附錄第四》行進速度及其集合場ニ到ル距離ヲ顧慮シテ記述スルヲ緊要ナリトス

出發時刻ノ選定

軍隊ハ作戰上ノ要求ニ從ヒ萬難ヲ排シテ目的ヲ達成セサルヘカラスト雖其休養上ノ顧慮ハ如何ナル時機ト雖之カ充足ニ勉メサレハ遂ニ作戰上ノ要求ヲ滿足

セシムルヲ得サルニ至ルヲ考慮セサルヘカラス無意味ノ早發ノ如キハ人馬ノ休養上ニ困難ヲ生シ從テ行軍ヲ困難ナラシムルノ基礎ト爲ルヘケレハ常ニ作戰上ノ要求ニ妨ケナキトキハ出發時刻ノ選定ニ就テ左ノ諸注意ヲ要ス

一　睡眠時間
二　日出、日沒時間
三　出發前ノ準備時間《著裝、裝鞍、喫食、飼付及手入、集合、檢査並注意、命令、訓示時間》
四　宿營地ノ景況
五　天候、季節ノ關係
六　行程
七　道路ノ狀態

蓋シ人類ノ睡眠及食事時間ハ之ヲ節約シ得ルトスルモ馬匹ハ急食ヲ强ヒ休憩ヲ苟モスルトキハ克己力缺乏シ唯斃テ後止ムニ至リ軍隊ヲシテ戰鬪力ヲ竭盡セシムルヲ以テ十分ノ休養及飼付時間ヲ與ヘサルヘカラス即チ步兵ハ拂曉以前ニ出發セシメス乘馬兵ハ拂曉一時間後ニ出發セシムルヲ定規トスル所以ナリ然レ

トモ遲發日沒後宿營スル如キハ却テ宿營ニ就クノ時刻ヲ遲延シ休養ヲ害スルニ至ルコトヲ顧慮シ出發ノ時刻決定ニ就テ指揮官ハ全幅ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス然レトモ日沒後生地ニ就クハ甚タ困難ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ稍〻早キノ感アルモ拂曉前ニ熟地ヲ出發スルヲ良シトス

日出並日沒時間表

區分	日出時	日沒時
月一	6.50 6.15	4.49 5.24
月二	6.32 5.58	6.19 5.51
月三	5.55 5.23	5.46 6.18
月四	5.12 4.39	6.12 6.45
月五	4.38 4.02	6.37 7.13
月六	4.25 3.47	6.57 7.34
月七	4.36 3.59	6.56 6.33
月八	4.59 4.25	6.30 7.04
月九	5.23 4.51	5.48 6 21
月十	5.47 5.15	5.06 5.28
月一十	6.16 5.42	4.36 5.09
月二十	6.42 6.07	4.30 5.05

備考　本表ハ其月ノ上旬、下旬ノ中數時ヲ示ス
日出時欄上段ハ日出、下段ハ拂曉ヲ、日沒時欄上段ハ日沒、下段ハ薄暮ヲ示ス

第二百二十二　行軍ノ爲メ軍隊ノ集合法ハ戰術上ノ顧慮、其部隊ノ大小及地形ニ依ルモノトス（集合ニ要スル幅員概數ハ附錄第五參看）

大部隊ヲ一地ニ集合スルノ利益ハ出發ノ時刻ニ至ル迄各部隊ヲ直接ニ掌握シ最新ノ情報ニ基キ現時ノ情況ニ最モ適合スル如ク行軍ヲ區處シ得ルニ在リ然レトモ此集合法ハ軍隊ヲシテ永ク集合場ニ駐止セシムルノ害アルヲ以テ特ニ敵ニ接近セル場合ニ於テノミ用フヘキモノトス

故ニ時ノ形勢ニ從ヒ部隊毎ニ集合場ヲ定メ以テ行軍序列ニ適應セシムルヲ可トス

例ヘハ師團ニ在リテハ前衛ヲ一團トシ本隊先頭ノ歩兵及砲兵ヲ以テ一團トシ其他ヲ以テ又一團トシ之ニ各〻一箇ノ集合場ヲ定ムルカ如シ若シ部隊小ナレハ行軍隊形ヲ以テ路上ニ集合スルヲ得ヘシ

何レノ集合法ヲ問ハス行李及輜重ヲ以テ軍隊ノ行動ヲ妨碍セサルコトニ特ニ注意スルヲ要ス

大部隊ノ集合場ニシテ其位置ヲ地圖ニ依リテ判然指示スル能ハサルトキハ豫メ現地ニ標示スヘシ又要スレハ道路ヨリ集合場ニ至ル新道ヲ開設スヘシ

戰備行軍ニ於ケル軍隊ノ集合法

戰備行軍ニ於ケル軍隊ノ集合法ハ軍隊ノ便ノミヲ主トスルコト能ハス一ニ戰

術上ノ顧慮部隊ノ大小地形ノ三要素ニ從ヒテ變化ス其集合法ニ三種アリ

一　出發前之ヲ一地ニ集合セシムルモノ

二　部隊毎ニ集合場ヲ定メ以テ行軍序列ニ適應セシム

三　途上縱隊ニ路上ニ集合ス

集合ニ要スル幅員概數

團隊號	隊形	幅(米)	深(米)
步兵 聯隊	縱隊横隊ノ二線	三〇〇	一〇〇
旅團	右ノ重疊	三〇〇	二〇〇
聯隊	大隊縱隊ノ二線	一〇〇	二五〇
旅團	右ノ並列	二〇〇	二五〇
野砲兵聯隊	横隊ノ二線	二〇〇	一五〇
師團		四〇〇	六〇〇

軍隊ヲ一地ニ集合スル利害及用所

軍隊ヲ出發前一地《大ナル編合》ニ集合スルノ利害左ノ如シ

一　指揮官ハ出發ノ時刻ニ至ル迄各部隊ヲ直接ニ掌握シ在ルヲ以テ此時迄得タル最新ノ情報ニ依リテ軍隊ヲ區處シ得ルノ利アリ

二　出發前新情報ニ接シ豫定ノ行進目標ヲ變更セサルヘカラサル場合ニ於テモ諸部隊悉ク一地ニ集合シ在ルヲ以テ新目標ニ向ヒ容易ニ行進ノ區處ヲ爲シ得

以上ノ利アルト同時ニ又左ノ害アリ

一　全部ノ集合ヲ待ツ爲永ク一地ニ駐止シ在ラサルヘカラス

二　集合地ニ於テ行軍序列ヲ命スルヲ以テ集合部隊ハ更ニ行動ノ爲前後交叉等多少ノ混雜ヲ來スヲ免レス此害ハ部隊大ナルニ從ヒ益〻大ナリ

故ニ此集合法ハ左ノ場合ニ用フルモノトス

敵ニ接近シ其時々刻々變化スル情況ノ影響ヲ直ニ被ムルトキ

部隊毎ニ集合スル利害

前述ノ方法ハ大部隊ノ集合ニ不利ナル場合多キヲ以テ時ノ形勢ニ從ヒ部隊毎ニ集合シ以テ行軍序列ニ入ラシムルヲ適當トス即チ前衛ノ爲一集合場、軍隊ノ先頭歩兵及通常其間ニ在ル砲兵ノ爲一集合場、其他ノ爲ニ一集合場ヲ設クルカ如ク數箇ノ集合場ヨリ行軍序列ニ適應スル如ク出發セシムル方法是レナリ然レトモ此集合法モ多少ノ利害ナキ能ハス即チ左ノ如シ

利

永ク集合場ニ駐止スルノ必要ナク集合直ニ行軍ニ移リ得ルヲ以テ大部隊ヲ一地ニ集合スルモノニ比シ地形ニ適合シ易ク且ツ集合ノ爲ノ混雜ハ大部隊ヲ一地ニ集合スルモノニ比シ少ナシ

害

情況ノ變化ニ應シ之ニ適應スヘク行軍序列ヲ直ニ變更シ得ス故ニ若行軍方向ヲ變更セント欲セハ部隊ノ距離存スルヲ以テ迂路徒勞等ヲ免

レス殊ニ集合ト同時ニ高級指揮官ノ掌裡ヲ脫ス

行軍縱隊ニ道路上ニ集合スル方法及利害

軍隊ノ集合法ニ就テ既記二法ノ利害ヲ研究シ其害ヲ除クヲ得ハ一地集合ノ利タル知ルヘキナリ蓋シ一地集合法ハ混雜大ナラス出發ヲ待ツ時間少ク行軍序列ニ移ル時間速ナルヲ以テナリ即チ小部隊ハ第一法ノ利ヲ收ムルコト多ク大部隊ハ其害ヲ被ル大ナリ而シテ其最モ簡便ナルハ前記第三法ノ路上集合法ナリ然レトモ此法モ亦左ノ害ヲ有ス

一　道路ヲ閉塞ス

二　行李輜重ヲ集合セシムルヲ得ス

然レトモ小部隊ハ此弊害殆ト尠少ナルヲ以テ此法ハ小部隊ノ集合ニ最モ適應セル方法ナリトス而シテ大部隊ニ在リテハ其害ヲ被ルコト大ナルヲ以テ此方法ヲ用フルヲ得サルモノトス

集合場ノ位置

集合場ハ宿營地ノ前方適宜ノ位置ニシテ左ノ要求ヲ顧慮シテ之ヲ選定スヘキモノトス

一　敵眼ニ遮蔽

二　集合ニ迂路ヲ取ラス

三　宿營地ヨリ逆行ヲ爲サス

四　地積十分

五　進入、進出ニ困難ナラス

六　地盤堅硬

等トス而シテ集合場地圖ヲ以テ明示シ得サルトキハ將校ヲ先遣シ或ハ標示ヲ設クル等錯誤ノ徒勞ナキヲ要ス又要スレハ道路ヨリ集合場ニ到ル新道ヲ開設スヘシ

第五章　行軍序列

第二百二十三　警戒隊(前衛等)ノ行軍序列ハ其指揮官之ヲ規定シ本隊ニ在リテハ全隊ノ指揮官之ヲ規定ス

行軍序列ヲ規定スルニハ主トシテ豫メ考定セシ軍隊使用上ノ順序ニ從フモノトス故ニ通常本隊ノ先頭ニハ前衛ノ歩兵隊ト同聯隊若クハ同旅團ニ屬スル歩兵隊ヲ行進セシメ野戰砲兵ハ其警戒ノ許ス限リ前方ニ在リテ前進セシムヘシ而シテ長大ナル野戰砲兵ノ行軍縱隊ニ在リテハ其中間ニ歩兵ノ小部隊ヲ行進セシメ以テ警戒ヲ完ウスルヲ可トス

行軍序列規定ノ要旨

行軍序列トハ行軍ノ場合ニ於ケル各部隊ノ位置即チ行軍順序ヲ謂フ

旅次行軍ニ在リテハ適宜此序列ヲ規定シ得ヘキモ戰備行軍ニ在リテハ戰術的要旨ニ從ヒ左ノ顧慮ヲ參酌セサルヘカラス

一　主トシテ豫メ考定セシ軍隊使用上ノ順序ニ從ヒテ規定シ各兵種必要ノ緩急ヲ顧慮シ時機ニ適應スルコト

二　混雜、錯綜ヲ避クル爲メ成ルヘク建制ヲ分割セサルコト

之ヲ換言スレハ作戰上ノ目的ニ適合スル軍隊區分ニ依リ戰鬪ニ際シ各部隊ヲ順序良ク且ツ最モ適當ニ使用シ得ルヲ謂フ即チ敵情、地形、目的ノ三大要素ニ關係スル固ヨリ論ヲ須タス例ヘハ敵我ヨリ速ニ展開シ得ルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ遠距離ヨリ妨碍スルニ要スル砲兵ヲ前衛ニ屬シ或ハ遭遇戰ニ於テ機先ヲ制スル場合モ亦砲兵ヲ前衛ニ附シ或ハ地形上架橋縱列ノ前方ニ在ルヲ要スル場合ニハ之ヲ前衛ニ附スルカ如キヲ謂フ

行軍序列規定ノ權限

行軍序列規定ノ要旨上記ノ如シ從テ之カ規定ハ左記諸官ノ權限ニ屬スルモノトス

一　前衛等警戒隊ノ行軍序列　警戒隊ノ指揮官

二　本隊ノ行軍序列　全隊ノ指揮官

故ニ本隊ノ行軍序列ヲ軍隊區分中ニ命令スルニハ「同行軍序列」ナル文字ヲ本隊

ノ文字下ニ加ヘ警戒隊ニハ單ニ編合部隊ノ名稱ヲ各兵種ノ順序ニ列記シ其行軍序列ニ容喙セサルヲ要ス

本隊ノ行軍序列

其一　騎兵

騎兵ノ大部ハ多ク本隊ト離隔シテ行動スルヲ以テ本隊ニ屬セル騎兵ノ小部隊ハ本隊直接ノ搜索及傳令ニ使用スルモノナルヲ以テ之ヲ本隊ノ先頭ニ置キ且ツ其使用ニ便ナラシムル爲通常本部又ハ司令部ノ先頭ニ位置セシムルモノトス

其二　歩兵

歩兵ハ戰鬪ノ主兵ナルヲ以テ敵ト衝突スルヤ先ツ第一ニ此兵種ヲ要ス從テ騎兵ニ次テ本隊ノ先頭ニ位置セシメサルヘカラス而シテ茲ニ注意スヘキハ建制ヲ破ラサルコトヲ勉ムルニ在リ然レトモ其一部ヲ前衛ニ充ツル爲其建制ヲ破ラサルヘカラス例ヘハ師團ニ在リテ之カ爲完全ナル二箇ノ旅團ヲ本隊ニ有

スル能ハス某旅團ハ勢ヒ其建制ヲ破ラサルヘカラサルニ至ル之カ爲必要ニ際シ速ニ自然ニ建制ヲ回復シ得ルカ如ク通常本隊ノ先頭ニハ前衛ノ歩兵ト同聯隊若ハ同旅團ニ屬スル歩兵隊ヲ行進セシムルモノトス

其他ノ歩兵ハ砲兵使用上ノ關係ヲ顧慮シテ規定スルモノトス即チ砲兵ノ直後ニ位置セシムルモノトス

其三　野戰砲兵

野戰砲兵ノ位置ニ關シテハ左ノ諸件ヲ顧慮スルヲ要ス

一　敵ト衝突スル虞アルトキハ前方ニ位置セシムルヲ有利ナリトス殊ニ遭遇戰ニ於テ然リトス

二　砲兵ハ防禦力ヲ有セス殊ニ行軍中ヲ然リトス故ニ過度ニ前方ニ出シ敵ニ曝露スル危險ヲ防ク爲若干歩兵部隊ノ後方ニ位置セシムルヲ要ス

三　砲兵ハ短距離ヲ躍進シテ若干ノ歩兵部隊ヲ超過シ前方ニ進出シ得ル力ヲ有スルヲ以テ前方ニ在ル歩兵部隊等ノ行軍及指揮ヲ困難ナラシメサル程度ニ於テ後方ニ位置セシムルヲ要ス

四　左ノ情況ニ在リテハ砲兵ヲ最後方ニ位置セシメ得ヘシ

イ　出擊ノ虞ナキ敵ニ對シテ前進スルトキ

ロ　砲兵ノ陣地進入困難ニシテ大工事ヲ行フヲ要スルトキ

ハ　部隊小ニシテ一躍進出容易ナルトキ

五　道路險惡並列行進或ハ並行道路アラサルトキハ部隊ノ大小ニ拘ハラス適宜前方ニ位置セシムルヲ要ス

六　中間挿入ノ時ハ歩兵大單位ノ中間ニシテ小單位間ニ位置セス歩兵部隊ノ指揮團結ヲ容易ニシ兼テ砲兵ノ使用ニ便ナラシムヘシ但シ長大ナル砲兵ノ行軍縱隊ニ在リテハ警戒即チ敵ノ小部隊騎兵別働隊等ノ奇襲ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ其中間ニ歩兵小部隊ヲ特ニ行進セシムルコト在リ

之ヲ要スルニ大部隊ニ在リテ行軍中砲兵ノ歩兵ヲ超過躍進スルハ蓋シ困難《師團本隊トスレハ其長徑約五千米ナルヲ以テ速歩ノミヲ用フルモ約一時間ヲ要スルカ如シ》ナルヲ以テ之ヲ最後尾ニ位置セシムルハ稀有ノコトニシテ適宜前方ニ位置セシムルモノトス

其四　工兵

工兵ハ技術的兵種ナルヲ以テ其多クハ前衛ニ附屬スルモノトス然レトモ全部ノ工兵ヲ前衛ニ附スルトキハ左ノ不利ヲ生ス

一　本隊ニ在ル砲兵殊ニ前衛工兵ノ援助ヲ受ル能ハサル方面ニ行動スル砲兵ヲ援助スル場合

二　本隊ノ通過ニ依リ道路、橋梁等破壞シ大行李、輜重通過ノ困難ヲ來シタル場合

故ニ一部ノ工兵ヲ本隊ノ後尾ニ在ラシムルコト在リ而シテ本隊ニ屬スヘキ工兵ハ地形及目的ニ依リ其位置ヲ異ニス即チ第一項ノ場合ニ在リテハ本隊ノ前方、第二項ノ場合ニ在リテハ本隊ノ後尾ニ置クモノトス

第二百二十四　野戰砲兵ノ中隊段列ハ通常大隊毎ニ一團ト爲シ高級故參ノ段列長ノ指揮ニ屬シ中隊ノ行軍序列ニ從ヒ大隊戰砲隊ノ直後ニ跟隨ス

聯隊段列ハ通常師團戰列部隊ノ直後ニ在リテ行進シ而シテ要スレハ特ニ其位置ヲ指示ス

聯隊段列ハ一部ヲ砲兵大隊若クハ中隊ニ分屬スルコトアリ此場合ニ於テ其位置ハ前項ニ準ス

野戰砲兵段列ノ行軍序列

中隊段列ハ大隊毎ニ一團ト爲リ高級故參ノ段列長ノ指揮ヲ以テ中隊序列ニ從ヒ大隊戰砲隊ノ直後ニ在テ跟隨ス例ヘハ前衛ニ砲兵一大隊(一中隊欠)ヲ附スルトキハ此前衛砲兵戰砲隊ノ直後ニ二中隊ノ段列跟隨シ本隊ニ在ル同砲兵聯隊ノ後方ニハ其聯隊ノ中隊段列、戰砲隊ノ行軍序列ニ準シテ一團ト爲リ跟隨スルモノトス何トナレハ各中隊段列ヲ同行セサルモ陣地偵察進入等ニ要スル時間ハ段列ヲ開進セシムルニ十分ノ餘裕ヲ存スレハナリ

大隊又ハ中隊獨立シテ前衛或ハ支隊ニ分屬セシメラルルトキ聯隊段列ノ一部ヲ分屬スルコト在リ此場合ニ於ケル聯隊段列ノ位置ハ所屬部隊ノ直後即チ中隊段列ノ後方ニ行進スルモノトス其他ノ場合ニ在リテハ師團戰列部隊ノ直後ニ在リテ行進ス又戰鬪ヲ豫期シ一部若ハ全部ヲ招致スル場合ハ特ニ其行軍序列ヲ規

定スルモノトス

第二百二十五　野戰重砲兵ノ觀測小隊ハ一團ト爲リ通常所屬隊ノ先頭ニ在リテ行進ス然レトモ情況ニ依リ前衛ト共ニ行進セシムルコトアリ

野戰重砲兵ノ段列ハ野戰砲兵ノモノニ準ス

野戰重砲兵ノ行軍序列

野戰重砲兵ノ行軍位置ニ就テハ從來多少ノ議論アリ即チ其一部ヲ前衛ニ附スルヲ可トスルノ論者アリト雖野戰重砲ハ其重量ノ大ナルト輜間ノ廣キ等特性上射擊準備ニ可ナリノ時間ヲ要シ且ツ操縱容易ナラサルヲ以テ之ヲ前方ニ位置セシムルモ他隊ノ行動ヲ妨ルノミニシテ利益尠ナシ故ニ通常本隊ノ後尾ニ位置セシメ要スレハ前方ニ招致スルノ手段ヲ取ルヲ可トス

然レトモ敵陣地ノ景況分明ニシテ直ニ使用シ得ルトキ等特別ノ場合ハ前衛ニ附屬スル等適宜前方ニ位置セシムルヲ可トス而シテ觀測小隊ハ一團ト爲リテ通常所屬隊ノ先頭ニ位置スト雖敵ト遭遇ヲ豫期スル場合等ニハ前衛ト共ニ行進シ

速ニ射擊ノ準備ヲ爲ササルヘカラス良好ナル觀測所ハ重砲兵射擊準備中特ニ緊要ナルヲ以テナリ

野戰重砲兵段列ノ行軍序列

野戰重砲兵段列ノ位置ハ野戰砲兵ニ準スルモノトス

第二百二十六　電話隊ハ戰鬪又ハ宿營ニ移ルニ方リ遲滯ナク電話線ノ築設ニ著手シ得ル如ク通常本隊ノ前方ニ在リテ行進セシム時宜ニ依リ其一部若クハ全部ヲ前衛ト共ニ行進セシムルコトアリ

電話隊ノ行軍序列

電話隊ハ時機ヲ失セス電話線架設ヲ要シ特ニ側衛等ト其末端ヲ連結スル場合ハ其勢力多大ナルモノトス故ニ時宜ニ依リテハ其一部若ハ全部ヲ前衛ト共ニ行進セシメ通常本隊ノ前方適宜ノ位置ニ在リテ戰鬪開始後ノ前進ニ伴隨セシメサルヘカラス

第二百二十七　衛生隊ハ通常軍隊區分ニ依リテ編合セラレタル部隊ノ後尾ニ在リテ行進ス

第二百二十八　架橋縱列ハ其一部若クハ全部ヲ前衛或ハ本隊若クハ大行李ノ後方ニ在リテ行進セシムルコトアリ

衛生隊ノ行軍序列

衛生隊ハ遭遇戰ヲ豫期スル等ノ情況ニ於テ其一部ヲ前衛ニ屬セラレタルトキハ前衛本隊ノ後尾其他ハ本隊ノ後尾ニ其分屬セサルトキハ全部本隊ノ後尾ニ在リテ行進スルモノトス

架橋縱列ノ行軍序列

架橋縱列ノ行軍序列左ノ如シ

一　前衛本隊ノ後方《直ニ架橋ノ必要アルト認ムルトキ》

二　本隊ノ後方《本隊到著後ニ於テ架橋ヲ必要トスルトキ》

三　大行李ノ後方《使用ノ目的ヲ有スルモ其時期定マラサルトキ然レトモ輜重

ト共ニ行動セシムルトキハ時間ノ機宜ニ合セサルカ如キトキ》

第二百二十九　計手、隊外從卒、徒步隊附工長、騎兵及騎砲兵ノ徒步兵等ハ其所屬部隊大行李ノ前方ニ在リテ行進スルモノトス而シテ此等ノ人員ハ行軍ニ關シテ大行李長ノ區處ヲ受クルモノトス

第二百三十　以上掲クル所ハ前進行ノ場合ニ於ケル規定トス側敵行及退却行ノ場合ニ於テモ亦本章規定ノ趣旨ニ準シ行軍序列ヲ定ムヘシ

大行李長ノ區處ヲ受クヘキ人員

主計ハ各部隊經理ノ主腦者タリ故ニ常ニ其部隊長ト密接ナル連繫ヲ保持シ行軍ノ休止、宿營給養等隊長ニ對シ責任多キヲ以テ常ニ活動シ在ルヘク慢然大行李等ト行動ヲ共ニスヘキニアラス此故ヲ以テ其位置ハ要スレハ隊長之ヲ指定シ或ハ自ラ決定シテ報告シ其宿營ニ就カントスル時機ニ於テハ速ニ部隊長ノ許ニ到リ必要ノ指示ヲ受ケサルヘカラス故ニ新令ハ主計ノ位置ヲ規定スルコトナシ

而シテ計手等ノ下士以下ノ者ハ一團ト爲リテ所屬部隊大行李ノ前方ニ在リテ

行進スルモノトス而シテ此人員ハ統一ノ爲行軍ニ關スルコトハ大行李長ノ區處ヲ受クヘキモノトス

第六章　行軍實施

第二百三十一　軍隊出發後道路ニ出ツレハ徒歩兵種ニ在リテハ「途歩」、爾餘ノ兵種ニ在リテハ「休メ」ノ號令若クハ號音ヲ傳フ是ニ於テ歩ヲ調フルヲ要セス特別ノ時ヲ除クノ外ハ談話シ唱歌シ喫煙スルヲ許シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ(要スレハ中隊長之ヲ規定ス)右肩、左肩ニ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クヘシ而シテ軍隊ハ路上便利ナル側方ヲ擇ヒ行進スヘク若シ道路ノ兩側便利同シキ時及他部隊ニ遭遇セシトキハ行進方向ニ對シテ道路ノ右側ヲ行進スヘシ行軍中背後ニ從フ諸部隊ハ皆先頭部隊ニ準スヘク且ツ兵卒ハ勉メテ前後ニ重疊シ以テ縱隊面ヲ擴張セサルコトニ注意スヘシ

廣キ街道ニ於テハ常ニ其一側ヲ虛ウシ他部隊ノ通過ニ供スヘク狹キ道路ニ在リテモ單獨ノ乘馬者ヲシテ縱隊ノ行進ヲ妨碍スルコトナク疾走スルヲ得セシムヘシ又其部隊ニ屬スル乘馬將校ニ在リテモ其虛ウセル側方ニ出ツルハ唯一時通行ノ時ノミタルヘシ行軍縱隊ノ大ナル時ニ在リテハ殊ニ然リトス道路ノ景況ニ依リ或ハ炎熱ノ時ニ在リテハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ虛ウスルヲ可トスルコトアリ

各個人恣ニ服裝ヲ紊スヲ禁ス然レトモ襟ヲ開クカ如キ許スヘキ事件ハ其時機ヲ誤ラス速ニ指揮官ヨリ全隊ニ令スヘシ

兵卒若シ已ムヲ得ス隊列ヲ離ルルヲ要スルトキハ小隊長(小隊長近傍ニ在ラサルトキハ分隊長又ハ之ニ準スル諸長)ノ許可ヲ受クヘシ

行軍實施上ノ注意

行軍實施上ノ注意ハ本令ニ詳述セラレ在ルヲ以テ特ニ述フヘキモノナシ唯規定ノ注意ニ附帶スル要件ノ大要ヲ左ニ摘記スルニ止メントス

一　途歩或ハ休メノ號音、號令

『速歩』或ハ『氣ヲ著ケ』ノ歩法ハ軍紀敎練トシテ廢頽セル志氣ヲ皷舞スル外長途ノ行軍ニ使用セサルモノトス即チ敵ニ近キ時ノ外人類自然ノ歩法ヲ以テ談話シ喫烟シ刀ヲ鞘ニ納メ銃ヲ隨意ニ擔ヒ敬禮ヲ行ハス自由ニ行進スルモノトス但シ分隊、小隊或ハ一伍毎ニ同時ニ代ヘ銃ヲ行ヘハ多少ノ窮屈ヲ忍ヒ銃ノ撞突破損ヲ生セス縱隊面ヲ擴張セス行進シ得ヘシ

二　路幅ノ利用

便利ナル側方ヲ選ヒ行進スルモノナルヲ以テ先頭伍ハ幹部ノ指示ニ從ヒ速ニ之ヲ規正セサルヘカラス兩側便利ノ度同等ナルカ若ハ他隊ト遭遇セシトキハ右側ヲ行進スルモノトス突然右方ニ避クル如キハ他隊ノ行進ヲ妨ルコト多シ

如何ナル場合ト雖一側ヲ空虛ニシ他部隊ノ通過ニ供スヘク少クモ單獨ノ乘馬傳令ヲ容易ニ通過セシムルヲ要ス故ニ狹キ道路ハ四伍ヲ二伍或ハ三伍ニ變更スルカ如シ之ヲ以テ乘馬隊將校ノ側方ニ出ルモ唯所要ノ爲一時通行ノトキノミニ限ルモノトス

道路險惡ナルカ或ハ炎熱ノトキハ兩側ヲ行進シ中央ヲ虛ウスルヲ可トス

三 軍紀ノ維持

姿勢ハ成ルヘク端正ニシ俛首、屈腰ノ却テ疲勞ヲ助長スルコトヲ銘心シ服裝モ指揮官ノ臨機命令ノ外猥ニ襟ヲ開(指揮官之ヲ命ス)キ頸紐ヲ脫シ帽ヲ傾クル等ノコトナキヲ要ス特ニ隊列ヲ離ルルトキハ許可ヲ得ヘク其隊列ヲ離レ追及スルハ過度ノ疲勞ヲ釀スモノナルコトヲ忘ルヘカラス

四 住民地ノ通過法

疲勞ヲ減殺シ氣力ヲ恢復シ左顧右眄ノ弊ヲ避ル爲敵ニ遠キトキハ行進譜ノ喇叭ヲ吹奏シ軍容ヲ整フルコト在リ即チ徒歩兵ハ『速歩』、乘馬兵ハ『氣ヲ著ケ』ノ歩法ヲ用フ

第二百三十二 縱隊中ノ一部隊ニ生スル行軍長徑ノ變化ハ縱ヒ小ナルモ漸次他ノ諸部隊ニ關係ヲ及ホスコト大ナルヲ以テ兵卒ハ勉メテ歩度ヲ齊一ニシ以テ伍間ノ距離ヲ伸縮セサルコトニ注意スヘシ又行軍長徑ノ變化ヲ調節スル目的ヲ以テ各部隊間ニ一定ノ距離ヲ存スルヲ要ス即チ左ノ如シ

歩兵、工兵中隊後ニ	十歩
歩兵、工兵大隊並騎兵中隊後ニ	二十歩
歩兵、騎兵聯隊並砲兵中隊後ニ	三十歩
砲兵聯(大)隊並聯隊段列後ニ	四十歩
旅團後ニ	六十歩

其他隊間距離ノ規定ナキ部隊ニ在リテハ其長徑ノ大小ニ從ヒ前記ノモノニ準スヘシ

乘馬將校、喇叭手、副馬等ハ皆縱隊ノ長徑中ニ算入シ之ヲ隊間距離中ニハ算セサルモ

ノトス

第二百三十三　各部隊間ニ前條ノ距離ヲ置キ且ツ先頭部隊ノ歩度ヲ齊一ニ保ツトキハ行軍縱隊ニ起リ易キ遽止或ハ急進ノ害ヲ防キ得ルモノトス故ニ行軍長徑愈〻大ナルニ從ヒ先頭部隊ハ益〻歩度ヲ齊一ナラシムルニ注意シ後方部隊ハ隊間距離ヲ絕エス嚴守セス又絕エス伸縮スルコトナク以テ撞著ノ爲メ一時生シタル列伍ノ伸縮ヲシテ容易ニ他部隊ニ波及セシメサルヲ要ス

部隊間ノ距離ヲ設クル要旨

行軍ニ於テハ道路ノ景況ニ依リ若ハ不時ノ故障ニ依リ一時長徑ノ延伸或ハ佇立ヲ免レス部隊大ナルニ從ヒ益〻然リトス此變化ヲ直ニ後方ニ波及スルハ行軍ノ疲勞ヲ來ス大弊ナリトス故ニ此不利ヲ後方ニ波及セサラシムル爲多少ノ空間ヲ存シ歩度ノ齊一ト相俟テ其伸縮ヲ調節スルヲ要ス又此空間ハ一面前隊ノ塵烟ヲ流去セシムルニ與テ力アリトス例ヘハ三十歩ノ距離ヲ間シ行進セル軍隊前隊ノ長徑延伸シ其二十歩ヲ塡塞シタリトセンカ後方部隊ハ直ニ歩度ヲ縮メ或ハ緩ニシ殘餘ノ十歩ヲ定距離ニ規正スルハ規定ヲ墨守スルノ愚タルヲ免レス若此際後方部隊此距離ヲ存セサランカ忽チ衝突スヘシ此ノ如キハ此隊間距離ヲ絕エス墨

守セス又絕エス伸縮スルハ共ニ此距離ヲ存スル精神ニ背戻スルコトヲ知ラサルヘカラス

本令距離ノ規定ハ多年實驗ノ結果ヲ標示スルモノニシテ其幾歩ハ記憶ニ便シ實施ヲ容易ナラシムル爲ト又操典等ノ記述ト一致セシムル爲ナリトス而シテ此距離ハ道路ノ景況、天候、季節、晝夜、特ニ敵ノ情況ニ依リ適宜伸縮シ得ルモノトス

第二百三十四　大部隊ハ一吉米ヲ行クニ良好ノ景況ニ在リテ約十三分間ヲ要スヘシ

徒歩兵ノ背嚢ヲ脫シテ別ニ之ヲ運送スレハ著シク行軍ヲ容易ニシ從ヒテ行軍力ヲ增加スヘシ然レトモ之カ爲メ行李ヲ增大スルニ至ルヲ以テ非常ノ場合ニシテ且ツ小部隊ニ於テノミ實施スルヲ得ヘシ

徒歩兵背嚢ノ運送

行軍ヲ容易ニシ以テ行軍力ヲ保持スル爲背嚢ヲ脫シテ別ニ運送スルコト在リ然レトモ此方法ハ大行李ヲ增大スルニ至ルヲ以テ非常ノトキノ外用フヘカラサルナリ

日露戰役ニ於テ我軍ハ戰鬪毎ニ背嚢ヲ卸シ各人ノ携行スルモノハ外套飯盒携帶口糧器具及百五十發ノ彈藥ニシテ之カ運送ニハ各聯隊ニ二百五十乃至三百人ヨリ成ル勞働中隊ヲ附シ輕車輛ヲ以テ運搬セリ然レトモ戰時地方ヨリ運搬具ヲ徵發スルコト困難假ニ徵發シ得ルトスルモ背嚢運搬ノ如キハ最後ノ方法タルモノトス故ニ戰鬪開始セラレ軍隊ヲ迅速且ツ缺員ナク戰場ニ到ラシメントスルトキ小部隊ニ實施スルノ一方法タルニ過キサルヘシ

第二百三十五 行軍ノ急速ヲ要スルトキハ先ツ徒歩兵ヲシテ勉メテ澁滯ナク行進セシムヘシ而シテ乘馬者及車輛ヲシテ行軍縱隊ノ中間或ハ其先頭ニ行進セシムルトキハ徒歩兵ノ運動ヲ妨碍スルニ至ルモノトス

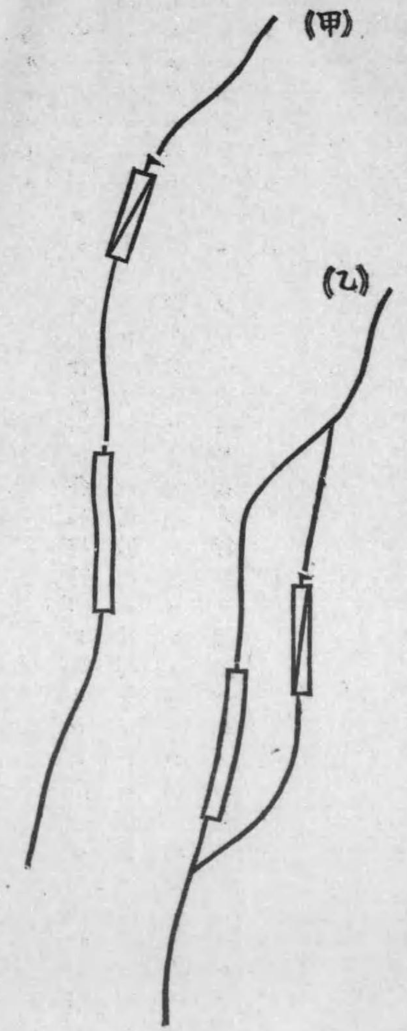
若シ他ニ妨碍アルニ非サレハ騎兵ハ歩兵ノ前方ニ行進セシムルヲ可トス

行軍ヲ急速ニスル法

諸兵種聯合ノ大部隊ニ在リテハ歩度ノ急速ニ依リテ行軍ノ急速ヲ望ムヘカラス蓋シ駈歩ヲ爲スカ如キハ戰場ニ於ケル應急ノ一手段タルニ過キスシテ長途ノ

行軍ニ之ヲ用ヒ得ヘカラサル論ナシ而シテ混成大部隊ノ行進ヲ支配スルモノハ徒歩兵ニシテ其歩度ニ澁滯ナカラシムル如ク勉ムルトキハ行軍ヲ急速ナラシムルヲ得ヘシ他兵種ハ歩兵ノ歩度ニ順應セサルヘカラス而シテ乘馬者及車輛等ニシテ行軍縱隊ノ中間又ハ先頭ニ行進スルトキハ徒歩兵ノ運動ヲ妨碍スルコト多キヲ以テ此ノ如キコトナカラシムル如ク勉ムルトキハ其行軍ヲ急速ナラシムルヲ得ルモノトス

若一道ヲ行軍セシムル場合(甲)ハ各兵種時間ヲ異ニシテ出發セシメ歩度早キ騎兵ノ如キハ歩兵ニ膠著セサラシムル爲若他ニ妨碍ナケレハ歩兵ヨリ先ニ出發セシメ又ハ途中適當ノ道路ヲ選ヒテ超過先行セシメ得ルカ如キ場合ニ於テハ(乙)ノ如ク後レテ出發セシメ途中毫モ歩兵ノ行進ヲ澁滯セシメス之ヲ超過セシメ得ルカ如クスルカ如シ



上法ヲ用フル能ハス一道上各兵種ノ編合縱隊ヲ組織スルトキハ遽止急進ヲ避ル爲部隊間ノ距離ヲ大ニシテ或ハ梯隊ヲ作リ乘馬隊及車輛ハ步兵隊ノ直前或ハ後尾ニ在リテ其行進ヲ妨ケサル等ノ處置ヲ講スルヲ要ス

第二百三十六 時宜ニ依リ開進ヲ速ニスル爲メ行軍縱隊ヲ短縮スルヲ要スルコトアリ之カ爲メ正面ヲ廣クシ若クハ行軍縱隊ヲ並列シ或ハ部隊間ノ距離ヲ短縮ス

行軍縱隊ノ短縮

時宜ニ依リ開進ヲ速ニスル爲行軍縱隊ヲ短縮スルヲ要スルコト在リ夫レ開進時間ハ縱隊ノ全長徑ヲ一分間ノ行進速度ヲ以テ除スヘキモノナルヲ以テ開進ヲ速ニスル爲ニハ縱隊ノ短縮ヲ要スル固ヨリナリ而シテ縱隊ノ短縮トハ步兵ニ在リテハ分隊、小隊面、中隊縱隊ノ側面隊形、野戰砲兵ニ在リテハ距離ヲ短縮セル小隊縱隊ノ應用隊形ヲ編成シ部隊間ノ距離ハ稀ニ一時短縮スルヲ得ルモ列間距離ヲ閉縮セサルヲ謂フ

然レトモ此方法ハ疲勞大ナルヲ以テ正面ヲ廣クスル時期ハ過早ナルヘカラス又部隊間ノ距離ヲ短縮スルトキハ遽止急進ノ疲勞甚大ナルヲ以テ戰鬪部署ヲ爲ス最後ノ時機タラサルヘカラサルモノトス

又行軍縱隊ヲ併列スルハ最モ害少ナク且ツ短縮ノ利益最モ大ナリ故ニ適當ナル道路アレハ此方法ニ依ルヲ可トス然レトモ其間隔ノ大ナラサルニ注意スヘシ」

此他一部隊ヲシテ道路外ヲ通過セシムルノ方法アレトモ地形特ニ之ヲ許スニ

アラサレハ永續的ニ實施スルヲ得スシテ開進時ノ一方法タルニ過キス

第二百三十七 行軍縱隊內ニ在ル砲兵ヲ前方ニ招致スルニ方リテハ步兵トノ行進交叉ヲ防止スル爲メ砲兵ハ步兵ノ何レノ側方ヲ通過スヘキヤヲ命令スルヲ可トス若シ行進交叉ヲ避ク可カラサルニ方リテハ步兵ヲシテ砲兵ノ間隙ヲ急速ニ通過セシムヘシ之カ爲メ要スレハ步兵ハ中隊縱隊又ハ併立縱隊ニ閉縮シテ通過スヘシ此規定ハ步兵相互間又ハ異兵種間ノ行進交叉ノ場合ニモ亦準用ス

行軍縱隊ノ行進交叉

本條ハ新ニ規定セラレタルモノニシテ國軍兵力增大シ而モ決戰場裏ニ成ルヘク多クノ兵力ヲ密集スルノ度大ナルニ從ヒ益〻此必要ヲ生スヘシ而シテ行軍縱隊ノ行進交叉トハ左ノ場合ヲ云フ

一 豫備隊又ハ後方ニ集結セル部隊ノ使用上已ムヲ得ス行フ場合

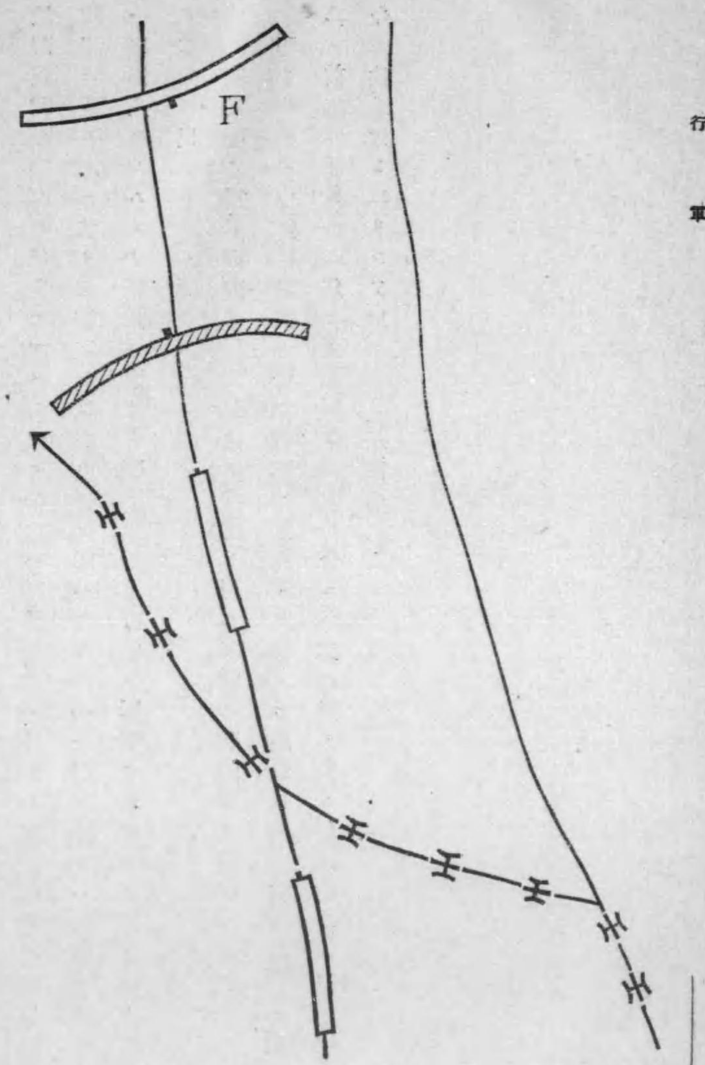
二 縱列、輜重等後方連絡線ノ交叉ヲ避ル爲復舊運動ヲ行フ場合

第一ハ敵ノ情況ニ依リ數〻現出スルコト在ルヘク寧ロ緊急ノ場合ニ屬シ第二ハ

戰鬪後稍〻餘裕有ル場合ナルヘシ故ニ第二ハ交叉點ヲ一兵團ノ露營地若ハ集合地附近ニ定ムルニ依リテ弊害ヲ除去スルヲ得ヘキモ第一ハ行軍中ノ一縱隊ヲシテ一時停止セシムルノ損失ニ依リテ有形、無形上非常ノ影響ヲ與フルヲ以テ必ス左ノ處置ニ出テサルヘカラス

廣正面ノ行軍縱隊ヲ以テ迅速ノ步度ヲ用ヒ部隊ノ間隙間ヲ通過ス

即チ步兵ハ中隊縱隊又ハ併立縱隊ニ閉縮シテ急速ニ通過スルニ在リ此法ハ砲兵ヲ前方ニ招致スル爲步兵ト衝突スル場合ニモ亦適用ス蓋シ集團砲兵ノ使用ハ今後益〻有效ト爲リシヲ以テナリ《左圖參照》



若同一路上後方ノ砲兵ヲ招致スルトキハ砲兵ヲシテ何レノ側方ヲ通過スヘキヤヲ豫メ命令セサルヘカラス歩兵ヲシテ路外ニ避ケ行進ヲ繼續セシムルヲ得ハ更ニ妙ナリ然レトモ此命令ハ砲兵ヲ招致スル指揮官ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

第二百三十八 夜行軍ヲ爲スニ方リテハ暗夜ト雖モ其定メタル方向ヲ確實ニ保持スル爲メ必要ナル百般ノ規定ヲ爲スコトニ特ニ注意セサル可カラス即チ縱隊中ノ集結ヲ正シク保持シ縱隊ニ嚮導ヲ附シ且ツ後續部隊ヲシテ進路ヲ誤ラシメサル爲メ所要ノ地點ニ連絡兵ヲ殘置シ若クハ適宜ノ標識ヲ爲スコト等ニ注意スルヲ最良ノ方法トス其他道路ノ障碍ヲ除キ或ハ之ヲ迂回シ以テ兵卒疲勞ノ原因タル擡著ノ患ヲ除キ且ツ休憩ハ成ルヘク時間ヲ短縮シ回數ヲ增加スル等ノ處置ヲ必要トス又敵ノ近傍ニ在リテハ靜肅ニ行進スルヲ以テ缺ク可カラサルコトトス

乘馬兵ニ在リテハ馬裝ノ不整、騎手ノ假眠等ニ依リ鞍傷、冠膝等ヲ生シ易キヲ以テ特ニ注意ヲ要ス

暗夜ノ軍隊ニ及ホス影響並諸注意

夜間ハ睡眠時ナルヲ以テ此習慣ヲ打破シ夜行軍ヲ行フトキハ感情上既ニ幾分ノ疲勞ヲ生ス加之目視不十分ニシテ神經過敏ト爲リ些細ノ事物ニ驚惶スルヲ以テ諸種ノ徵候ニ注意シ連絡方法ヲ確實ニシ以テ兵卒疲勞ノ原因ト爲ルヘキ諸件ヲ除去スルニ努ムヘシ其注意要件ヲ述フレハ左ノ如シ

其一 幹部ノ注意要件

一 行進路ニ關スル注意

イ 障碍ヲ排除シ要スレハ迂回通過法ヲ規定スルコト之カ爲要スレハ工兵ヲ先遣ス

ロ 岐路、迷路、及不要路ヲ閉塞スルコト之カ爲先頭部隊ハ速ニ之ヲ決行シ以テ後續部隊ヲ誘導ス

ハ 偵察ヲ完全ニシテ夜間ノ標示、修理ヲ爲スコト之カ爲將校ヲ派遣ス

二 警戒ニ關スル注意

イ 照明ノ規定之カ爲情況ニ從ヒ含燈、電燈ヲ使用ス

ロ 命令、記號、號音等ノ敎示之カ爲情況ニ應シテ指揮ハ命令又ハ記號ニ依ル

カ號音ハ之ヲ嚴禁スル等ヲ規定ス

ハ 喫烟、談話ハ之ヲ許スカ否ヤ《喫烟ノ火光ハ遠距離ニ達シ談話ハ敵ノ注意ヲ喚起ス》

三 縱隊ニ關スル注意

イ 部隊誘導ノ處置之カ爲縱隊中ノ各部隊ニ嚮導ヲ附ス

ロ 連絡ノ處置之カ爲密接シタル連絡兵ヲ配置シテ交通ヲ確實ニス

ハ 遽止、急進ニ對スル處置之カ爲縱隊ノ集結ヲ正シカラシム

ニ 前方ニ必要ナキ騎兵ノ處置之カ爲全縱隊ノ後尾ニ位置セシム

四 休憩停止セルトキノ注意

イ 休憩ノ位置ヲ制限スルコト

ロ 隊列ヲ離レシメサルコト

ハ 休憩等ノ際猥ニ武器、裝具ヲ脫セシメサルコト

ニ 睡眠ノ度《二、三時間休憩ノトキ》或ハ禁制ヲ確實ニ行ハシムルコト

ホ 出發時ノ人員及遺留品ノ有無ヲ檢査スルコト

一般ニ休憩ハ數〻之ヲ行ヒ其時間ヲ短縮スルヲ要ス

其二　兵卒ノ注意スヘキ要件

一　出發前ノ注意

イ　與ヘラレタル睡眠時間ニ十分睡眠シ途中假眠セサルコト《乘馬兵ニ在リテ騎手ノ假眠ハ鞍傷、冠膝ヲ生シ易キヲ以テ殊ニ注意ヲ要ス》

ロ　服裝ヲ整備シ附屬物ヲ堅固ニ裝著スルコト馬匹亦然リ《同上》

ハ　兩便ニ注意シ其他物品ヲ忘却、遺失セサルコト

二　行進中ノ注意

イ　靜肅ニシテ談話、喫烟セサルコト

ロ　武器、々具、水筒等ノ戛音ヲ發セサル如クスルコト

ハ　定位置ヲ守ルコト

ニ　特ニ步度ヲ齊一ニ保チ遽止、急進セサルコト

ホ　列伍ヲ疎開セサルコト

ヘ　連絡ニ最モ注意スルコト

ト　假眠ヲ爲ササルコト

三　休憩時ノ注意

イ　休憩ノ際ハ直ニ兩便ヲ近距、離ニ於テ終リ在ルコト

ロ　又銃線或ハ所命ノ地ヨリ離レテ休憩セサルコト、通常銃ヲ手ニスルヲ可トス

ハ　背嚢ヲ卸スヲ許サレタルトキハ之ヲ身邊ニ携フルコト

ニ　著裝ヲ改ムルトキハ遺失物ナキコト

ホ　戰友ト相提携シ互ニ見失ハサルコト

ヘ　猥ニ民家ニ立入リ或ハ猥ニ飲水、飲茶セサルコト

ト　睡眠ハ命セラレタル者ノ外行フヘカラス

夜行軍ト障碍物ノ通過

夜間障碍物ニ遭遇スルトキハ敵情、天候、明暗ノ度ニ依リ之カ通過ノ爲左ノ諸注意ヲ要ス

一　幹部ノ注意

一　障碍物ノ種類及狀態等ヲ知ラシムル爲點燈、標示、申繼等ノ設備

二　隊形、速度、待合セ等通過及通過後ノ處置

三　連絡ヲ確實ニスル爲標兵、標示等ノ處置

二　列兵ノ注意

一　必ス指定ノ隊形ヲ以テ通過スルコト

二　敵情、其他之ヲ許セハ障碍物ノ狀態ヲ後方ニ申繼キ且ツ通過ノ安否ヲ傳フ

三　障碍物ニ遭遇セハ躊躇又ハ遽止スルコトナク通過スルコト

四　通過後駈歩ヲ猥ニシ後方トノ連絡ヲ失ハサルコト

第二百三十九　行軍スル軍隊ノ大患ト爲スモノハ炎熱及沍寒ナリ而シテ炎熱ノ際ニ在リテハ徒歩兵、沍寒ノ際ニ在リテハ乘馬兵ハ殊ニ困難ヲ感シ之カ爲メ僅少ノ時間ニ於テ多數ノ列兵ヲ減スルコトアリ宜シク深ク豫防法ニ注意スヘシ

炎熱ニ際シ特ニ恐ルヘキハ暍病ナリ而シテ其豫防法ハ行軍中適度ニ飲水ヲ爲サシムル外成ルヘク列伍ヲ疎開シ帽ノ頤紐ヲ上ケ襟ヲ開カシメ又情況ニ依リ夜間ヲ利用シ若クハ晝間ノ酷暑時ヲ避クルヲ可トス尙成ルヘク睡眠ノ不足ナカラシメ又空腹ナラシメス且ツ屢〻休憩セシムルヲ肝要トス

飲水供給ノ爲メニハ出發前必ス水筒ヲ充塡セシメ又豫メ乘馬將校等ヲ先遣シ住民ヲ促シ路側ニ水桶ヲ備ヘシムヘシ而シテ小部隊ハ暫時駐止シテ全隊ニ飲水セシムルコトヲ得ヘシ然レトモ大部隊ニ在リテハ前後ノ部隊撞著スルノ虞アルヲ以テ此法ヲ用ヒ難シ故ニ行軍中ニ水ヲ得テ之ヲ飲ミ且ツ其携帶スル水筒ニ貯フルノ方法ニ依ラサル可カラス

軍隊沸水車ヲ携行スルトキハ之ヲ使用シ成ルヘク生水ヲ用ヒシメサルヲ要ス

沍寒ニ際シ最モ恐ルヘキハ凍死、凍傷ニシテ殊ニ夜行軍ニ於テ甚シトス而シテ其豫防法ハ野外ニ於ケル休憩ヲ短クシ勉メテ運動ヲ爲サシメ特ニ時々手ヲ動カシ得ル爲メ銃ハ負革ニテ肩ニ懸ケシムルヲ可トス又常ニ空腹ナラシメサルヲ要ス爲シ得レハ休憩ノ際成ルヘク熱キ湯茶ヲ給シ又被服特ニ手套、靴下等ノ濕潤スルトキハ成ルヘク速ニ之ヲ交換セシムヘシ而シテ身體濕潤ノ時若クハ甚シク凍痛ヲ感スル時直接ニ火熱ニ觸レシム可カラス又屋外ノ睡眠ト酒類ノ飲用トヲ嚴禁シ釦、紐ノ解脫ナキコトニ注意シ且ツ常ニ手足耳鼻就中足尖ヲ凍傷ニ罹ラシメサルニ注意スルヲ緊要トス

乘馬隊ニ在リテハ下馬行軍ヲ行フヲ以テ凍傷ニ對スル最モ有利ナル豫防法トス

第二百四十 道路不良ナルカ或ハ炎熱ノ時若クハ積雪甚シキ時ニ在リテハ先頭部隊ヲ時々交代セシムルヲ要ス又强風ニ際シテハ風位ニ面スル一側ヲ行進スル兵卒モ時々交代セシムルヲ可トス

强風殊ニ砂塵飛揚スル場合及積雪ノ地ニ在リテハ眼鏡若クハ眼簾ヲ使用シ又炎熱ニ際シテハ帽ニ垂布ヲ使用スルヲ可トス

炎熱及暍病ノ豫防法

行軍スル軍隊ノ大患ト爲スモノハ炎熱及沍寒ナリ是レ短少時間ニ於テ多數ノ列兵ヲ減少スレハナリ此困難タルヤ炎熱ノ際ニ在リテハ徒歩兵、沍寒ノ際ニ在リテハ乘馬兵ニ於テ其最モ甚シトス深ク豫防ニ注意セサルヘカラス

抑〻夏期徒歩兵ノ背嚢ヲ負フテ行軍スルトキハ體熱過度ニ昂進シ其蓄積ト日光ノ直射ニ依リ熱中病及暍病ヲ起スニ至ル故ニ成ルヘク空氣ノ流通ヲ良クシ涼ヲ取ルノ法ヲ講スル本令ニ明示スル如クナラサルヘカラス特ニ其恐ルヘキハ暍病トス暍病ノ原因左ノ如シ

其一 大氣ノ影響

一 本病ハ氣溫ノ高キ季節即チ六乃至九月ニ多ク特ニ八月ヲ最トス熱帶地方ノ住民及機關室火夫ノ如ク人類ハ習慣ニ依リ或程度マテハ高氣溫ニ慣熟スルノ性質ヲ有スルヲ以テ幾何ノ氣溫以上該病ヲ發スルヤハ蓋シ未定ノ問題ナリトス我邦ニテハ實驗ニ依レハ攝氏二十二度ニ於テ既ニ之カ發病ヲ認メ漸次氣溫ノ增加ニ伴ヒ其數ヲ遞加ス獨逸軍ノ統計ニ依レハ攝氏二十二度ニテ該病ノ發生ヲ認メタリト謂フ蓋シ被服裝具ノ景況ニ依リ大氣ノ流通閉塞シ發汗ノ蒸發ヲ妨ルトキハ是レ以下ノ氣溫モ往々該病ヲ發生スルニ注意セサルヘカラス殊ニ低氣溫ノ持續セシ後突然氣溫昇騰スル際ニ於ケル習慣ヲ破ル激變ハ最モ危險ノトキナリトス之ヲ一日ニ就テ言フトキハ午前十乃至午後三時ハ最モ本病ヲ發シ易キヲ以テ爲シ得ル限リ此時間ヲ除キテ實施スル如ク行軍計畫ヲ爲スハ幹部ノ責任ナリトス

二 日光ノ直射ハ我邦ニテモ帽內過度ノ熱度ヲ釀シ往々攝氏四十六度ニ達シ腦及腦膜ノ充血ヲ起シ本病ノ原因ト爲ル故ニ帽ニ垂布ヲ用ヒ樹蔭、屋下ニ屢〻

休止スルノ處置ヲ取ラサルヘカラス

三　氣溫昇騰大氣ノ濕度增加スルトキ《濕度六十五プロセント以上》ハ汗ノ蒸發ヲ減シテ體溫ノ放散ヲ妨ケ體溫鬱積本病ノ原因ト爲ル此ノ如キ氣溫ハ雨季後ノ暑熱並大雷雨前ニ多シトス

四　無風ノ際ハ體溫ノ發散ヲ妨止スルヲ以テ本病ノ原因ト爲ル故ニ灌木林、凹道、溪谷、市街等無風ノ場所ヲ通過スルトキハ特ニ幹部ノ注意ヲ要ス

其二　隊伍及被服ノ狀態

一　凡テ行軍縱隊ハ延長セル密集隊形ニシテ列兵ハ他ノ發汗蒸發、呼吸氣ノ吸收、塵埃並通氣不良ヲ感シ著シク不快疲勞ヲ生シ爲ニ本病ノ原因ト爲ルコト多シ故ニ道路ノ兩側ヲ行進シ中間ヲ空虛ニスルノ處置ヲ取ルヲ要ス

二　步度ノ伸長、駈步等ハ體溫ヲ激增シ筋肉ヲ疲勞セシメ呼吸ヲ促進シ心臟ヲ鼓動シ本病ノ誘因ト爲ル故ニ『途步』ヲ爲ササルヘカラス

三　上記ノ要旨ニ基キ行進中ハ成ルヘク大氣ノ流通ヲ良クシ體溫ノ發散及發汗ノ蒸發ニ便ナラシムルヲ要ス負擔量ヲ輕減シ得ハ更ニ妙ナリ

四　夏季ノ行軍ニハ發汗、甚シク水分減退渴ヲ催シ甚シキハ發汗、排尿共ニ杜絕シ血行變調、體溫鬱積本病ヲ發生スルニ至ルヲ以テ時々清涼ノ飲水ヲ爲サシムル爲爲シ得レハ先遣者ヲシテ之カ準備ヲ爲サシムルヲ要ス湯茶亦同シ空腹ハ身體ヲ衰弱シ本病發生ノ原因タルヲ以テ適度ノ食物ヲ補給シ筋肉ノ勞働ニ依リテ生スル新陳代謝ヲ補充スルヲ要ス然レトモ酒ハ却テ本病發生ノ誘因タルヲ以テ不可ナリ

五　休憩ハ本病豫防上ノ緊要事トス故ニ一時間每ニ十分內外ノ休憩ヲ與ヘ負擔物ヲ卸脫シ衣服ヲ開キ大氣ノ流通ヲ良好ナラシメ以テ體熱ヲ去リ疲勞ヲ醫シ呼吸ヲ安靜ナラシム場合ニ依リテハ三十分以上ノ休憩ヲ與フルヲ要スルコト在リ

其三　箇人ノ狀態

一　常ニ安逸ノ生活ヲ爲ス者ハ過激ノ勞働ニ依リテ本病ヲ發スルヲ以テ退院患者、滿罰者、炊事、酒保、集會所當番、本部附下士卒及初年兵、豫後備兵等ニハ特ニ注意ヲ倍蓰スルヲ要ス

心臟呼吸器等ニ故障アル者、空腹、睡眠不足、消化不良、飲酒、下痢者及凡テ疼痛性患者ニ對スル注意亦前項ニ同シ

冱寒及凍傷ノ豫防法

凍傷ノ原因モ喝病ノ如ク單ニ氣溫ノミニ歸セサルハ人類ノ習慣性ニ依ル即チ北極ニ近キ人類ノ健康ヲ保チ得ルニ徵シテモ之ヲ知ルヘシ之ニ反シ零度以上ノ氣溫ニテ已ニ凍傷ニ罹ル者アルハ東京ニ於テ該症患者アルニ依リテ知ルヲ得ヘシ實ニ凍傷及凍死ノ原因ハ氣溫以外左ノ理由ニ依ルモノトス

一　外氣ニ接觸スル時間
寒氣ニ曝露シテ長ク駐立スルハ、本病ノ原因ニシテ夜間ヲ最トス

二　空氣、水、氷、雪等中間物ノ狀態
空氣濕潤セルトキ、融雪又ハ河川、徒涉等ノトキハ發汗ト濕潤トニ依リ本病ヲ起シ易シ寒風ハ雪霰ヨリ凍傷ヲ受ケ易シ

三　體力
虛弱者、貧血者、空腹者、疲勞者、酩酊者等ハ本症ニ冒サレ易シ

四　被服ノ景況
防寒護身ノ準備如何ニ依リ本病增減ヲ來ス

五　運動、停止
運動時ハ血脉ノ循環旺盛ナルモ停止時ハ之ニ反シ特ニ假眠ヲ害トス故ニ休憩中ト雖寒地ハ多少ノ運動ヲ要ス

雪中並嚴寒時行軍ノ注意

雪中及嚴寒時行軍ニ就テハ飲食ノ節制、被服、裝具ニ對スル注意、身體ノ清潔及休憩並就宿ニ於ケル諸注意等細心ノ注意ニ依リテ健全ヲ保持セサルヘカラス

而シテ上來炎熱及冱寒ニ際シテ喝病、凍傷、凍死ニ關シ若干述フル所アリシモ之カ豫防並處置ニ就テハ『軍人衞生法及救急法大意』等ニ詳記セラレ在リ茲ニ之ヲ記述スルハ徒ニ繁冗ノ嫌アルヲ以テ省略ス

先頭部隊、或ハ一側ノ交代及眼鏡等

道路不良ナルカ或ハ炎熱ノ時若ハ積雪甚シキ時先頭部隊ノ行進ハ非常ノ勞力ヲ要求スルモノナルヲ以テ時々之カ交代ヲ命シ疲勞ヲ輕減スルヲ要ス蓋シ道路不良ナルトキ道路ノ補修工事積雪時ノ道路開通等ハ尠ナカラサル疲勞ヲ來シ之ニ反シ後方部隊ハ無意味ニ行進シ得ルノ便アルヲ以テナリ之ト同シク風塵身ヲ壓スル側方ノ列伍ノ身體特ニ脚部ニ力ヲ用フル亦努メサルヘカラス即チ交代ヲ要スル所以ナリ

強風砂塵ヲ捲キ積雪腰ヲ沒スル地方ニ在リテハ日光ノ反射ト飛揚ノ防遏ヲ講セサレハ忽チ眼病ヲ起シ隊伍ニ列スル能ハサルニ至ル故ニ成ルヘク青色又ハ褐色ノ眼鏡及眼簾ヲ使用シ耳蓋、口蓋ヲ併用スルヲ可トス又炎熱ニ際シテ後腦保護ノ爲帽ニ垂布ヲ用ヒ且ツ氣孔ヲ穿ツヲ良トス

第二百四十一 軍隊軍橋ヲ渡河スルニ方リテハ之ヲ主管スル橋梁哨(附錄第六參看)長ノ指定スル軍橋渡過ノ注意ヲ遵守スヘキモノトス故ニ部隊長等ハ軍橋ニ達スル

前豫メ該指定ヲ知得スルコト必要ナリ

第二百四十二 縱列材料ヲ以テ架設セル軍橋ヲ渡過スル軍隊ハ通常本篇第三章ニ掲クル行軍隊形ヲ以テシ且ツ橋梁ノ中央部ヲ行進スルモノトス

凡テ乘馬者ハ下馬スルコトナシ然レトモ成ルヘク軍橋ニ達スル前若干ノ距離ヲ常歩ニテ行進シ以テ馬匹ヲ沈靜ナラシムヘシ又輜重車輛及凡テノ乘馬、駄馬ハ互ニ適當ノ距離ヲ以テ行進セシメ馬匹騷擾等ノ爲メ隊列ヲ擾亂シ軍橋ノ毀損ヲ招クコトナカラシムルヲ要ス

人馬及車輛等ハ縱ヒ其前方ノ距離ヲ失フコトアルモ決シテ軍橋上ニ於テ之ヲ同復スルコトヲ圖ル可カラス

大隊長(騎兵、砲兵ニ在リテハ中隊長)機關銃隊長及各縱列長等ハ當該部隊ノ軍橋ヲ通過シ終ル迄軍橋ノ入口ニ在リテ部下ノ渡橋ヲ監視スヘキモノトス又其出口ニモ監視者ヲ配置スルヲ要ス但シ當該部隊長自ラ之カ監視ヲ爲シ能ハサルトキハ其入口ニモ亦監視者ヲ配置スルモノトス

軍橋ノ渡過法

縱列材料ノ改正ニ伴ヒ軍橋ノ堅牢ヲ來シ乘馬者ハ下馬スルヲ要セス砲兵ハ特別ニ距離ヲ開クノ必要ナキニ至リシト雖尙ホ未タ永久橋ノ如ク堅牢ナル能ハス

動〻スレハ渡過ニ際シ毀損ヲ招クノ虞ナシトセス故ニ渡過ニ關シテハ愼重ノ態度ヲ取ラサルヘカラス即チ橋梁哨《本令附錄第六》ノ設ケ在ル所以ナリ特ニ其應用材料ヲ用フルニ方リテハ其材料ノ種類構築ノ時間等ニ依リ差異アルモ一般ニ脆弱ナルヲ常トス故ニ橋梁哨長ハ材料ノ種類河川ノ狀態ニ應シ渡過上細大ノ注意ヲ決定シ之ヲ掲示スルト同時ニ渡過部隊ハ必ス之ヲ遵守スルノ義務ヲ有スルモノトス之ヲ以テ情況ニ依リ軍橋渡過ノ一定ノ方法ヲ定ムル能ハスト雖縱列材料ハ終始同一ナルヲ以テ概ネ準據スヘキ一般ノ規定ヲ爲スヲ得本令ニ明示スル條項即チ是レナリ

軍橋渡過ニ關シ特ニ注意スヘキハ隊形變換ノ混雜ヲ軍橋ノ直前直後ニ於テセサルニ在リ是レ橋梁哨及殘置材料ノ集積其他人馬ノ輻湊等動〻スレハ喧噪混亂ヲ釀シ其餘波延ヒテ渡河ノ沈靜ヲ破ルニ至ルヲ以テナリ故ニ隊形變換ハ少クモ軍橋ノ入口ヨリ約百米ヲ存セサルヘカラス部隊大ナレハ更ニ此距離ヲ增大スルヲ要スルハ隘路通過ニ於ケルカ如シ

要スルニ軍橋ノ渡過ハ軍橋ノ安全ト渡過人馬材料ノ安全トヲ顧慮シ作戰上ノ

顧慮アルトキハ更ニ戰術的要旨ニ從ヒ必要ナル部隊ヲ先ツ渡過セシメ大行李等直接戰鬪ニ必要ナキモノヲ最後ニ渡河セシムルカ如シ而シテ隊列ノ縮小人馬ノ靜肅特ニ下馬渡橋ノ監視等ハ橋梁堅牢ノ度ニ正比例ス

凡テ軍橋ヲ渡過スルニ方リテハ步兵大隊長、騎砲兩兵中隊長、機關銃隊長及各縱列長等ハ其部隊通過ノ爲必ス軍橋ノ入口ニ於テ部下ノ渡橋ヲ終ル迄之カ監視ヲ爲スモノトス而シテ其出口ニモ亦監視者ヲ出シ各其規定ヲ遵守セシムヘキ責任ヲ有ス部隊長自カラ監視スルコト能ハサルトキハ其入口ニモ亦別ニ監視者ヲ出シ置クモノトス

第二百四十三 徒涉場ヲ通過スルニ際シテハ情況之ヲ許セハ徒步兵ヲ先ニシ乘馬兵、車輛ヲ後ニスヘシ

流速大ナルトキハ軍隊ヲ幅廣キ密集セル小群ニ分チ每群間ニ若干ノ距離ヲ存シテ通過セシメ各兵ヲシテ水面ヲ諦視セシム可カラス又徒步兵ハ手又ハ腕ヲ以テ互ニ相連結スルヲ可トス

彈藥ノ濕潤ヲ避クル爲メニハ豫メ之ヲ背嚢ニ收メシムルカ又ハ舟筏等ニ積載シテ渡過セシムヘシ

徒渉場ノ通過法《交通教範參照》

水流ノ速力一米以下ニシテ河底堅硬ナルトキ諸兵種ノ徒渉シ得ヘキ水深ハ歩兵ノ爲約〇米八十騎兵及山砲兵ノ爲約一米、野砲兵ノ爲約〇米四十、野戰重砲兵ノ爲約〇米六十、輜重車輛ノ爲約〇米四十、同駄馬ノ爲約〇米八十ヲ標準トス

徒渉場ハ左ノ設備ヲ爲スヲ要ス

河岸急ナレハ斜坂ヲ設ケ河底ノ大石ハ之ヲ除キ凹陷アレハ礫石或ハ重量ヲ附セル編束物等ヲ以テ之ヲ塡塞スル等必要ノ工事ヲ爲シ杭、浮標或ハ標燈ヲ以テ其限界ヲ標示シ流速急ナルトキハ下流ニ強杭ヲ植立シ綱ヲ張リ又爲シ得レハ救助船ヲ備ヘテ徒渉者ノ安全ヲ計ルヘシ

又河底甚シク柔軟ナルカ或ハ其深稍〻大ナルトキハ束柴或ハ礫石ヲ沈沒シテ修繕シ若シ敵ノ設置セシ鹿砦、植杭等アレハ之ヲ除去スヘシ

其他徒渉場ニハ最深ノ基準トシテ量水標ヲ植立スルヲ可トス徒渉場ノ通過法左ノ如シ

諸兵混成部隊ニシテ情況之ヲ許ストキハ徒渉場ヲ破壞セサル爲徒歩兵ヲ先ニシ乘馬兵及車輛ヲ後ニシ爲シ得レハ各別ノ徒渉場ヲ選定シ以テ河底ニ多少ノ凸凹ヲ生スルモ之カ爲諸兵ノ通過ヲ中止スルコトナカラシムルヲ可トス

流速急ナル場合ハ軍隊ヲ密集セル小群ニ別チ毎群間ニ若干ノ距離ヲ存シテ通過セシメ且ツ各兵ヲシテ水面ヲ諦視スルコトナカラシムヘシ又徒歩兵ハ手又ハ腕ヲ以テ互ニ相連結スルヲ可トス

而シテ彈藥ハ濕潤ヲ避ル爲豫メ之ヲ背囊ニ收メシムルカ或ハ舟筏等ニ積載シテ渡過セシムヘシ

第二百四十四 氷上ヲ通過スルニハ成ルヘク灰、木屑、土砂、藁等ヲ撒布シ或ハ十字鍬等ヲ以テ氷面ヲ粗ニシ以テ人馬ノ滑走ヲ豫防スヘシ若シ抗力十分ナラサルトキハ氷厚ノ增加ヲ圖リ或ハ板、梯子等ヲ敷キ若クハ各兵ノ距離、間隔ヲ疎開スルヲ要ス

氷上ノ渡過法《交通教範參照》

結氷ハ水面ニ密接セルカ或ハ未タ融解時ニ至ラス其抗力強キトキハ間隔及距離ヲ開キタル歩兵ノ爲〇米十、歩兵ノ側面縱隊及騎兵ノ二伍縱隊ノ爲〇米十五、野砲兵ノ爲〇米二十、野戰重砲兵ノ爲〇米三十、輜重駄馬一伍縱隊ノ爲〇米十二、輜重車輛一車縱隊ノ爲〇米十六ノ氷厚ヲ有スレハ渡過シ得ルモノトス

氷上ヲ渡過スルニハ成ルヘク灰、木屑、土砂、藁等ヲ撒布シ十字鍬等ヲ以テ氷面ヲ粗ニシ以テ人馬ノ滑走ヲ豫防スヘシ若氷厚薄ク抗力十分ナラサルトキハ氷厚ノ增加ヲ圖リ或ハ板、梯子ヲ敷キ若ハ各兵ノ距離、間隔ヲ疎開スル等ノ方法ヲ講スルヲ要ス

結氷ノ季節ニ在リテハ屢〻水ヲ氷面ニ灌キテ氷厚ノ增加ヲ圖ルヘシ之カ爲砂、藁、氷片等ノ小堤ヲ造リ以テ水ノ流失ヲ防止スヘシ流線ニ在リテハ藁、樹枝等ヲ置キ結氷ヲ促スヲ要ス

其他氷上蹄鐵ノ使用、車輛ノ控制等適宜ノ處置ヲ爲スヲ可トス

航行中ハ何人ト雖モ其位置ヲ離レ若クハ姿勢ヲ變スルヲ許サス又特ニ漕手ノ動作ヲ妨碍セサルコトニ注意スヘシ

縱列材料ヨリ成ル全形舟及門橋ノ搭載量並之ニ依ル乘船上陸法ハ附錄第七ヲ參看スヘシ

舟筏ニ依ル水流ノ渡過法《交通教範參照》

舟筏ニ各兵種ヲ搭載スルニハ左ノ方法ニ依ルモノニシテ其卸下ハ反對順序トス

乘舟、乘筏ヲ嫌フ馬匹ハ順良ナル馬匹ヲシテ先導セシメ若ハ尾ヲ上ケ或ハ臀部ニ板又ハ綱ヲ當テテ後方ヨリ推シ込ミ若ハ目隱ヲ施ス等ノ方法ニ依リテ搭載スヘシ

一　歩兵

歩兵ハ一人宛逐次舟ニ乘リ舳ノ方ヨリ順次ニ位置ス又筏ニ在リテハ先ツ其縱軸線ヨリ位置ヲ占メ次ニ之ヲ基準トシテ其左右ニ偏傾ヲ生セサル如ク平等ニ乘ルモノトス而シテ乘舟、乘筏セハ銃ヲ股間ニ立テテ跪坐スヘシ

全形舟ニハ武裝セル歩兵約十人《漕手ヲ除ク》ヲ乘スコトヲ得ルモノトス

二　騎兵

騎兵ハ門橋ニ乘ルト同一ノ方法ニ從ヒ馬體ヲ舟軸ト直角ナラシム若馬ヲ搭載スルコト能ハサルトキハ馬具及騎卒ノミヲ舟ニ乘セ馬ハ舟ノ下流側ヲ游泳セシメ騎卒ハ舟中ヨリ其韁ヲ執ルヘシ

三　砲兵

砲兵モ亦門橋ニ乘ルト同一ノ方法ニ從ヒ舟筏ヲ偏傾セサル如ク位置セシメ車軸ヲ舟舳ト直角ニシ枕材又ハ木楔ヲ以テ車輛ノ滑轉ヲ防クヘシ

馬匹ハ騎兵ニ準スルモノトス

但シ山砲ハ駄載シ在ルトキハ其儘搭載スルコト在リ

四　輜重兵

騎兵ト同法、車輛ハ門橋ニ乘ルト同法ニ依リテ搭載スルモノトス

駄馬ハ駄載ノ儘搭載ス

縱列材料ヨリ成ル全形舟及門橋ノ渡過法《交通教範參照》

縱列材料ヲ以テ構成セル全形舟及門橋ノ渡過法ハ本令附錄第七ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

一般ニ是等舟、筏、門橋ノ渡過法ハ通常渡過ヲ掌ル工兵將校ノ指導ニ依ルモノニシテ其規定ノ遵守ハ最モ嚴正ナラサルヘカラス然ラサレハ往々覆沒スルコト在リ又時間ヲ徒費スルノミナラス或ハ死歿者ヲ出スニ至ルコト在ルヲ以テナリ此規定ハ又艀舟及地方材料浮游體等補助渡過法ニ準用シ得ルモノトス

艀舟ハ地方ニ依リ其制式一樣ナラスト雖沿海ニ應用スル一般ノ規準船ニ積載シ得ル數量概ネ左ノ如シ

一　武裝セル兵員四十乃至五十人

二　武裝セサル兵員五十乃至七十人

三　馬匹　四乃至六頭

四　貨物　三百乃至四百才（一才ハ一立方尺）

補助渡河法（交通教範參照）

補助渡河法トハ繫留渡、漕渡、繰綱渡、滑綱渡ノ四種是ナリ

一　繫留渡トハ通常門橋ヲ上流ノ固定點ニ繫留シ流勢ヲ利用シテ兩岸ヲ往復スルヲ謂フ

此方法ハ一米以上ノ流速ヲ有スル河川ニアラサレハ其效少ナシ而シテ河幅百米以下ナレハ通常一門橋ヲ以テ往復ス故ニ河幅大ナルトキハ數箇ノ門橋ヲ游動セシメ各門橋ノ中間ニ他ノ門橋ヲ固ク錨定シ以テ游動門橋ノ乘替場トス

門橋ト水流トノ角度ハ四十五乃至五十五度ニシテ門橋ノ繫留點ハ渡河點ヨリ其游動スヘキ距離ノ一倍半乃至二倍ノ上流ニ於テ河川ノ狀態ニ應シ次

ノ要領ニ依リテ選定ス

河川上流適宜ノ距離ニ於テ屈曲シ在ルトキ或ハ河幅五十米以下ニシテ流勢急ナルトキハ岸上ニ選定ス

河底平滑堅硬ニシテ植杭、錨定セサルトキハ兩岸上ニ設ケ一門橋ニ繫留綱二條ヲ用ヒ河ノ中央ニ小舟ヲ錨定シ置キ之ニ使用セサル一綱ヲ繫キ逐次兩綱ヲ河ノ半幅ツヽニ使用ス

河幅五十米以上ナルカ若ハ之ヨリ小ナルモ流勢甚タ急ナラサルトキハ河ノ中央ニ選定シ若流勢一岸ニ偏倚シタルトキハ他岸ニ偏シテ選定ス

二　漕渡トハ水棹、橈、櫓等ヲ用ヒテ舟、筏、門橋等ヲ前岸ニ漕行スルノ謂ヒニシテ乘船點ハ自然ノ流下ヲ顧慮シ流速ノ强弱ニ應シテ上陸點ノ稍〻上流ニ選定セサルヘカラス掩護隊ノ渡河ニハ多ク此法ヲ用フ

三　繰綱渡トハ兩岸ニ引張セル張綱ヲ手繰リテ舟、筏、門橋等ヲ導クモノヲ謂フ

此方法ハ流速緩、河幅大ナラサレハ使用ニ適セサルモノトス

四　滑綱渡トハ兩岸間ニ引張セル張綱ニ滑車ヲ裝置シ之ニ門橋或ハ舟ヲ繫キ

流勢ニ依リテ兩岸ヲ往復スルモノヲ謂フ此方法モ亦流速一米以上ニアラサレハ效力少ク且ツ河幅百米以下ナラサレハ設置スルコト難シトス

徒渉、氷上、舟筏ノ渡過ニ就テ

上來ヲ綜合スルニ河川ノ徒渉ハ軍橋渡過ト等シク軍隊ノ知悉セサルヘカラサル事項ナルヲ以テ舊令ノ不備ヲ補フテ玆ニ新令ノ規定ヲ見氷上渡過モ亦將來戰場ニ於テ吾人ノ實施セサルヘカラサルコトナルヲ以テ又架橋若ハ渡河掩護隊等ニ任セラレタル部隊若ハ旅次行軍ニ在リテ橋梁ナキ河川ヲ通過スル場合ニ於テ屢〻舟筏ニ依リテ水流ヲ渡過セサルヘカラサルコト在ルヲ以テ共ニ新ニ規定セラレタリ

而シテ各條項共詳細ヲ極メ文意明瞭ニシテ更ニ說クヘキ餘地ヲ認メサルヲ以テ或ハ無用ニ似タレトモ本書ハ此各條項ニ對スル附帶事項ノ若干ヲ摘記シテ參考ニ供スルコトト爲セリ

第七章　休憩

第二百四十六　發程後約一時間ヲ經レハ服裝、馬裝等ノ改裝及兩便ニ要スル適當ナル少時間ノ休憩ヲ行ヒ其他行程ノ遠近ト天候ノ良否等トニ應シテ一同若クハ數同ノ休憩ヲ爲スヲ要ス若シ一同ナルトキハ路程ノ過半ヲ經過シタル後ニ於テシ數同ナルトキハ概ネ一時間毎ニ於テスルヲ適當トス

凡テ軍隊駐立スルコトナク直ニ休憩ノ地ヲ占メンカ爲メニハ豫メ乘馬將校ヲ先遣シ其地ヲ擇ハシムルヲ可トス

敵ニ關スル顧慮少ク且ツ道路ヲ閉塞スルノ虞ナキトキハ軍隊ノ休止及又銃若クハ下馬ハ行軍隊形ノ儘直ニ路傍若クハ路上ノ一側ニ於テシ以テ速ニ休憩ニ移ラシムヘシ此場合ニ於テハ特ニ他部隊或ハ乘馬者ノ通行ヲ自在ナラシムルコトニ注意スヘシ然レトモ長時間ノ休憩ニ際シテハ道路外適當ノ場所ヲ選ヒ一地又ハ數地ニ開進シテ行フヲ可トスルコトアリ

其他休憩地ノ選定ハ季節及天候ノ景況ニ從ヒ兩便、飲水、蔭影及風雨ノ蔽庇等ニ注意スヘシ

休憩ヲ規定スルニハ徒ニ繁雜ノ動作ヲ爲シテ休憩時間ヲ減スル等ノコトナカラシムヘシ又休憩ノ際ニハ豫メ休憩時間ヲ列兵ニ知ラシムルヲ可トス特ニ長時間ノ休憩ニ於テ然リトス

休憩中各部隊ハ常ニ所要ノ直接警戒法ヲ設クヘシ又敵ノ近傍ニ於テハ戰鬪準備ヲ確實ニスル爲メ要スレハ部隊毎ニ適宜縱長ヲ短縮シテ休憩スヘシ

林憩間下士兵卒ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス而シテ徒歩兵ニ在リテハ特ニ足部ノ保護ニ注意シ乘馬兵ニ在リテハ常ニ下馬シテ馬匹ヲ愛護シ暑熱烈シキトキハ特ニ休憩毎ニ馬匹ニ少量ノ水ヲ與フルコトヲ怠ル可カラス又稍〻永キ休憩ヲ爲ストキハ馱馬ノ積載物ヲ卸下スヘシ

第二百四十七 大部隊ニ在リテハ先頭部隊ハ其後方部隊ノ未タ出發セサル前既ニ長キ路程ヲ經過スルヲ以テ全隊同時ニ休憩スルハ不利ナリ故ニ地形之ヲ許セハ道路外適當ノ場所ニ休憩地ヲ選ヒ各部隊ハ到著スルニ從ヒ逐次該地ニ開進シテ休憩スルヲ可トス即チ此場合ニ於テハ前方ノ部隊已ニ再ヒ發途スルモ後方ノ部隊ハ尙休憩シアルカ若クハ未タ休憩ニ移ラサルモノトス

行軍中ノ休憩

軍隊ハ宿營地出發後約一時間ノ後ニ於テハ必ス休憩ヲ要ス然ラサレハ其行軍ヲ永續セシムルコト能ハスシテ落伍者ヲ出スノ原因トナルモノ爲レハナリ然レトモ行軍行程ノ近キトキニ於テ目的地點ニ達スル迄ニ一回ノ休憩ヲ行フコト在リ然ルトキハ其行程ノ半ヲ經過シタルトキニ行フモノトス其他行程及天候等ノ

關係ニ依リテ數回ノ休憩ヲ行フトキハ概ネ一時間毎ニ於テスルヲ普通トス

休憩ニ方リテハ軍隊ヲシテ永ク駐立セシムルコトナク直ニ休憩ノ地ヲ占メ得ル如クセサルヘカラス故ニ準備ノ時間アレハ乘馬者ヲ先遣シ其地點ヲ選ハシメ置クヲ可トス又敵ニ關スル顧慮少ナク道路ノ閉塞ノ虞ナキトキハ軍隊ハ路傍若ハ道路ノ一側ニ又銃又ハ下馬セシメ以テ休憩セシム又長時間ノ休憩ハ場所ヲ選ヒ一地若ハ數地ニ分レ開進シテ休憩セシムヘシ

休憩ノ爲天候季節ノ關係ニ顧慮スルヲ要ス

休憩ノ爲故ラニ錯雜ナル動作ヲ爲シ休憩ノ時間ヲ減少スルカ如キハ其目的ニ反ス而シテ長キ休憩ノ時ハ其休憩ノ時間ヲ下士以下ニ知ラシメ置クヲ便利トス而シテ此間馬匹ノ保護及直接ノ警戒等ヲ要求セラレタルハ實見ノ結果特ニ加ヘラレタル事項トス

若敵ノ近傍ニ於テ休憩スルトキハ戰備ヲ確實ニシ要スレハ部隊毎ニ其縱長ヲ減シ以テ休憩スルヲ要ス

休憩間下士卒ノ敬禮ハ行ハサルヲ通常トス而シテ此間歩兵ハ足乘馬兵ハ馬ヲ

保護スルノ注意ヲ怠ルヘカラス又休憩時間永キトキハ馬ノ積載品ヲ卸下シ以テ之ヲ愛護スルヲ勉ムヘシ

大部隊ニ在リテハ先頭部隊ハ既ニ後方部隊ヨリ餘程ノ行程ヲ行軍セルヲ以テ休憩ヲ要ス然ルニ後方部隊ハ未タ集合場ニ停止シ在リ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ全隊同時ニ休憩スルハ不利ナリ故ニ地形ノ許ス處ヲ選ヒ各部隊ハ到著毎ニ逐次ニ休憩セシム即チ此地形ニ依リ各部隊ハ逐次ニ開進シツツ休憩セハ行軍澁滯ヲ後方部隊ニ感セシムルコトナク休憩スルヲ得ヘシ以下尚ホ細部ニ渉リ說述セントス

休憩ノ回數及時間

休憩ノ回數ハ作戰上ノ要求、天候、季節、道路ノ良否及行程ノ遠近等ニ依リ異ナルモノトス行軍困難ニシテ疲勞セルトキハ其回數ヲ增加シ然ラサルトキハ之ニ反ス若作戰上ノ要求ニ依リテ急速ノ行軍ヲ爲ストキハ體力ノ許ス限リ連續行進ヲ行ヒ場合ニ依リテハ休憩ヲ廢スルコト在リ

休憩ハ古來便宜上左ノ二種ニ區分セヲル

一　小休止

二　大休止

小休止ハ十乃至二十分ノ休憩ニシテ疲勞スル體力ノ恢復、被服、裝具、馬裝、靴、靴下蹄鐵等ノ改裝、兩便、遺留兵ノ收容、水筒ノ補充等ニ必要ニシテ大休止ハ喫食或ハ炎熱時ノ睡眠ニ要スル三十分以上ノ休憩ヲ謂フ

行軍ニ際シテハ休止ノ慣勢ヲ破リ身體ノ調節ヲ不平均ナラシメ或ハ急遽發程ノ場合アルヲ以テ其第一ノ小休止ハ發程後約五十分ニ於テ服裝、馬裝ノ改裝及兩便ヲ辨シ並檢査シ以テ行軍ヲ容易ナラシムルヲ要ス今參考ノ爲各國ノモノヲ比較列擧スレハ左ノ如シ

出發後第一回ノ休憩時間

國名	出發後休憩迄ノ時間	休憩時間
露西亞	約一時間	十分
佛蘭西	同	同

獨逸——三十乃至四十五分——約五分
伊太利——約三十分——十分

休憩地ノ選定

休憩地ノ選定ハ情況、地形及天候、季節、衛生上ノ顧慮、行程ノ大小等ニ依リ決定スヘキモ一般ニ左ノ要求ニ合セサルヘカラス

一　土地乾燥ニシテ車輛ヲ埋沒スルコトナク又銃ニ便ニ背嚢若ハ積載物ヲ汚ササルコト

二　夏期ハ樹蔭等通風良ク冬期ハ障蔽等防寒ニ適シ特ニ雨雪天ニハ掩蔽下ヲ利用シ得ルコト

三　部隊ニ適スル地幅、地積アルコト

四　風土病、傳染病ナキコト

五　飲料水潤澤ナルコト

六　進入路便ナルコト

等ニシテ腰ヲ卸シ晏然休息シ得ル地點ナルヲ要ス佇立軍紀ヲ粧フ如キハ大禁トス而シテ其戰備行軍ニ在リテハ更ニ敵ニ曝露セサル土地ナラサルヘカラス又敵地ニ於テハ蔭蔽地内若ハ住民地等土人ノ蝟集スル地點及隘路内ヲ避クルヲ要ス

開進地ノ警戒

戰備行軍ノ休憩時ニ於テ本隊タル諸隊ハ其休憩地ノ直接警戒ノ爲所要ノ外衛兵ヲ備フルヲ忘ルヘカラス故ニ戰鬪準備前開進地ニ用フル隊形ニアラサルトキハ部隊毎ニ適宜縱長ヲ閉縮シ集合地ノ幅員ヲ短縮スルヲ要ス

旅次行軍而モ路上ノ休憩ニ於テモ銃器ノ監視及落伍者ノ收拾、兩便者ノ遲刻豫防ノ爲銃前哨ヲ備フルヲ可トス

陣中要務詳解第三卷終

大正三年十月十五日印刷
大正三年十月十八日發行

陣中要務詳解第三卷奥附
正價金八拾五錢

著者　同志會
發行者　東京市麹町區平河町四丁目十一番地　宮本林治
印刷者　東京市芝區櫻川町十七番地　山田三次郎
印刷所　東京市芝區櫻川町十七番地　金城舍

不許複製

發行所　東京市麹町區平河町　宮本武林堂
振替口座東京一〇九一二番

如風居士著

●代金は前金を振替口座へ拂込みを乞ふ

戰史摘例 歩兵操典證解

全三冊

總紙數千三百餘頁
引證戰例戰話約六百條
戰鬪實況繪畫六十葉
地圖戰圖大小五十二枚
製本本綴洋布製最美本

價一部　四圓五拾錢　毎冊　壹圓五拾錢　內地郵稅　一部二十錢　毎冊拾貳錢

第一卷綱領　第二卷 戈鬪一般ノ要領、攻擊、防禦、追擊及退却　第三卷 夜戰、持久戰、山地、河川、森林、住民地ノ戰鬪、他兵種ニ對スル歩兵ノ動作　第一部

我操典の條項は本書によりて頗る易解且つ耽讀手を釋く能はざる好讀物と一變し了れり、即ち其意義を講釋する爲めに、快刀亂麻を絶つ底の筆鋒を揮ひ、更に其理由を證明する爲めに內外古今多數の戰例就中日露の最新戰役を、最も多く最も適切巧妙に引用し、一々不動如山の大鐵案を下し、一見其原則のよりて生ずる所以の根原を知得せしむる而已ならず、內外有名な戰書の尤物多數な綱羅して一層讀者の興味感激を甚深ならしめんと勉めたる我日本は勿論殆と世界萬國にも其比類を見ざる良著と稱する躊躇せず、果せる哉本書を一讀せる、當時の英國大使館武官ソマーヴィール氏、獨國大使館武官ベルネ井ツ男爵及佛國大使館武官ベルタン大尉は何れも大賛辭を贈りて、著者が多大の勞力に酬いられたり、寔に必讀の最好著なり。切に愛讀を冀ふ。

發行所　東京市麹町區平河町一〇九ニ　振替東京一〇一ニ　宮本武林堂

講兵會編纂

●代金ハ前金ヲ振替口座ヘ拂込ミヲ乞フ

獨露佛 四國戰鬪原則對照

體裁菊版洋布製
價八拾五錢

本書ハ「講兵」指導諸官ガ、既往一年有半ニ於ケル間、研究諸氏ノ提出ニ係ル答解作業ニ就テ、原理原則ノ理解應用上ニ於テ大ニ感ゼラルヽ所アリ、百方考慮ノ末此缺陷ヲ補フベク、公務多端ノ間幾多ノ苦心ト熱誠ヲ籠メテ、四ケ國ニ於ケル或ハ操典、或ハ戰術學教程、或ハ戰術教科書、或ハ戰鬪教令中其粹ヲ拔キ、之ヲ各原則毎ニ類集對照セラレタルモノニシテ寔ニ戰術研究上全ク得難キ寶章ナリ。切ニ諸公ノ座右ニ勸ム。

發行所　東京市麹町區平河町一〇九ニ　振替東京一〇一ニ　宮本武林堂

陸軍歩兵少佐川崎良三郎殿編
各國機關銃研究書抄譯

機關銃ノ技術及戰術的評論

附各國機關銃兵備ノ情勢

●代金ハ前金ヲ振替口座（拂込ミヲ乞フ

價壹圓參拾錢　郵税内地八錢　外地十二錢
製本洋布製　挿入銃畫貳拾九箇

本書ハ編者ガ獨逸駐在中ノ經驗ニ基キ列國陸軍省ニ於テ爲セル最緊要ナル實驗並諸大家評論ノ抄譯ニ最新ノ情勢ヲ加味シタルモノナリ本堂請フテ許諾ヲ得我軍事界斯銃ノ研究ニ一大炬火ヲ提供スルノ光榮ヲ荷ヘリ切ニ乞フ大方ノ諸公此福音ヲ等閑ニ附シ去ルナカランコトヲ

目次

「ベリノ」機關銃
携帶（小銃形）「ポッチキス」機關銃
「オトコレック」機關銃
機關銃ノ防音器
墺國機關銃駄馬ノ駄載
機關銃ノ裝甲自働車
平時演習ニ於ケル機關銃ノ假裝射擊裝置
諸國機關銃ノ消息
獨逸國、墺地利國、佛蘭西國、露西亞國、英吉利國、瑞西國、伊太利國、合衆國、西班牙國、葡萄牙國、ブルガリヤ國、土耳古國、セルビヤ國、モンテネグロ國、白耳義國、和蘭國、瑞典國、諸威國、丁抹國、伯剌利國
機關銃ノ技術及戰術ニ就キテ——機關銃ノ戰術的使用
機關銃ノ征服（手榴彈、榴彈銃、白砲）
機關銃ニ對スル獨逸騎兵ノ動作並騎砲兵及機關銃ト連合セル獨逸騎兵ノ動作並騎砲兵及機關銃ト連合セル騎兵戰鬪
機關銃ト連合セル獨逸騎兵戰鬪
機關銃ト連合セル獨逸歩兵戰鬪並敵ノ機關銃ニ對スル戰鬪
墺國ノ機關銃使用
佛國機關銃使用ニ關スル教範
駄載運搬及駕駕機關銃隊
裝備ヲ異ニセル機關銃隊形ノ性質比較
結言

發行所　東京市麹町區平河町一〇九ー二　振替東京一〇一　宮本武林堂

313
313

終